愛國婦人

愛國婦人會機關
(愛國婦人會の目的は軍人の遺族及び癈兵を救護するにあり)

本號附錄
(本號には裁總殿下御染筆の附錄を添ふ)

銷夏號

無限

物の大といひ小といふ、詰りは比較上の事にて、較べる物に由りては、大ともなり、小ともなるものなり、例へば人は猫よりも大なり、されど象よりも小なりといふが如し。今實例によりて、物の大小には限りなきことを述べんに先つ小い物より始むれば、蚤は小なりと雖も肉眼にて見へるものなり。然るに近來顯微鏡なるもの出來て、肉眼にて見へざる者をも數百倍に擴大して見せしむるより、驚くべき微小なる生物あると分りたり。また然るに近頃は光線の力に由りて、空氣中に含有せる極めて微量なる物の存在をも知ることを得るに至れり。例せば一室の空氣中に含有する食鹽の一瓦(四分の一匁强)の三十億分の一の現存をも、此方法に由らば知るを得べし。一分の麝香が能く數年の間簞笥の衣服を薰じて、外出の時到る所に匂を送る其粉末の微細なることを想へ、しかも其粉末の各は、多數の分子より成るなり。而して其浮游せる粉末と粉末は、天體と天體の距離に比し得るほどに、非常に(割合)離れ居るなり。化學に所謂分子の如何に小なるかは、一立方迷突の水が含有する分子の數は六百四千兆(一兆は百萬の百萬倍)を下らず。もし一滴の水を八千英哩の直徑を有する地球ほどに擴大すれは、水の一分子ぼ鐵砲玉の大さに當るといふ。最も輕き物體なる水素の分子一億四千萬兆箇は僅かに千分の一瓦の重さを有するに過ぎず。しかも此等の分子は密接せるにあらず、分子間の間隔なるものありて、實質は容量の三千分の一に過ぎず、且各々分子は非常の速力を以て八方に振動し、空氣の如きは各分子一秒八十億回の衝突を他の分子となす、といふ。直徑十三仙迷突の球には、空氣の分子凡一兆兆(兆の兆倍)箇を容るるを得、即ち此珠を眞空となし、一微孔を穿ちて、毎秒一億箇の分子を注入すれは、球が元の如く普通の密度の空氣を以て充さるゝるは、四億年を要するなり。而して各分子は、更に一層小なる原子の化合又は混合せるものにして、各原子は又最近の研究によれは、無數の電子より成るといふ。されは如何に電子なるものゝ小なるかは、到底形容すべき言葉もなきなり。我が太陽系が未だ形體を成さずして汎漠たる氣體の狀態にありたる時の、其氣體は地球上最も輕き氣體なる水素の六十萬兆分の一の薄さ(密度)を有せりといふ。時々現はるゝ彼の彗星も、亦極めて薄き氣體より成れるものなり。而して此等の薄き氣體と、石の如く堅き物の中とに論なく、宇宙に遍滿せるものあり、之をエーテルといふ。エーテルの薄きことは、地球の二十倍の容量にても僅に凡そ百二十五匁の重さを有するに過ぎずといふ。顯微鏡の小世界を映出するが如く、望遠鏡は大世界を窺知せしむ。晴夜肉眼にて天空を望めば、大小無數の辰星は恰も梨子地の如く散布す。望遠鏡は能くこの肉眼の及ばざる所を映出して、更に無數の辰星を紹介す、しかも望遠鏡の屆かざる所尙幾多の天體あるや疑ひなし。而して其各が太陽若くは遊星たりとせは、我が地球の如きは實に空中を浮遊する一塵子のみ。光線は一秒四萬百六十獨哩(獨逸の一哩は我か一里二十八町四十六間餘の)速度を以て、空間を進行す、之を一年に積れは一と三分の一兆獨哩となる、(天體間の距離は此「光時」によりて計算す)。今天體の距離を見るに、地球と太陽との距離は二千萬獨哩にして、尙僅に八分十分秒光時なる思ひ較ぶべし。されば今、人眼に達せる星の光は、其星の距離に相當せる光時以前に、星を出發したるものなり。從て望遠鏡にて眺め得る或る星の光は、二三千年以前即ち神代若くは神武天皇即位の比に向ふを出てたる光にして、唯今其光の減せるを認むる時は、其星は二三千年の以前に滅亡せしなり。而して物質は唯此等無數且絕大なる星體として存するのみならず、眞空を許さゞる以上、星體の浮游せる空間にも物質は存せざるべからざるの理なり。要するに物は大に於ても小に於ても共に唯無限といふの外なし。人間六尺の體軀小なりといはば小、大なりといはば大、人間は、人間なり、地上の覇者として、其小なる者に對しては、自ら大として滿足し、其大なる者に向つては、不可解などゝ惱まずして、唯驚嘆せよ。人間は人間の分を知るべし、「汝自らを知れ」とは古の賢人が我々に遺せし最大の戒めなり。昔は星を仰て、行きて溝に落ちたる學者あり、老婆誨へて曰く、汝未だ地を知らず、敢て天を伺はんとす、此墜落ある所以なりと。人間の與へられたる舞臺は地球なり、唯此人間を以て此地球上に活動すれば足れり。戰爭、凱旋門、首縊り、二頭馬車、煩悶、戀愛、出産、婚禮、花火、木魚、是れ人生、柳は綠、花は紅のいろ〳〵、秋に月あり、冬に雪あり、夏に涼みありて、而してこゝに銷夏號あり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論叢

女子職業問題

東京高等工業學校長　手島精一

▲何故起るか　女子の職業問題は近來段々盛んになつて參りましたが、これは外國の眞似をすると云ふのではなく、實際の生活問題よりして止むを得ず起つて來るのでありまして、國家の上から云へば喜ぶ可き現象と云ふ程のことではありません、一體婦人は人の妻となつて家庭を治めて往くと云ふことが天職であるにも拘はらず、社會の生存競爭が劇んになるに從ふて婚姻することも出來ず、餘儀なく此所に職業問題が起るのでありまして、これが文明の美風であるとか云ふものではありません。

▲英國と米國　英國では倫敦ばかりでも、職業に從事しそれに依つて衣食して居る女子が八萬人あります、米國ではタイプライターと云ふ新職業が始まつて以來、女子の爲に支拂ふ給料が一ヶ年一千萬弗と云ふ多額に達し、なか／＼盛んなものであります、米國の女子は重に敎育に從事して居りまして、敎員なる語は女の代名詞となつて居る程であります。

▲適當な職業　女子の判任官も宜ろしいでありましやうが、工業の方面に女子が職業を求めんとするならば、陶器に美術的の繪を書く等のことが宜かろふと思ひます、一體女子の職業は、精密にして創設的、又は活動的のものでなくて、復習的幷に靜止的の單純なものが最も適します、殊に男子の主宰監督の下に働くと云ふ職業が適當であります。

▲學問と職業　私共が女子職業學校を設立した當初の目的は、貧民の女子に職業を覺へさせて、自活せしむる途を取らさうと云ふのでありましたが、今日は段々と其主義が變つて來まして、本年二百名の生徒を募集致しました處が、其內八十幾名は各地の高等女學校の卒業生でありました、技藝を敎へて職業的婦人を作るのが目的であるから、學問の素養は格別なくとも入學せしむるのでありますが、今日では高等なる學問をした人が澤山に入學するやうになつて來ました。

▲家庭と技藝　斯樣に高等女學校卒業の女子が入學する其目的は、職業を得て自活する爲かと云ふと、さうではなくして矢張り良妻賢母として家庭を營む上に、裁縫、編物其他の手藝が必要であることを感じて、それが爲に入學すると云ふのが多いのであります。自然最初の貧民敎育の目的が達せられないやうになりましたのは、私共創設者の一人として、頗る遺憾に思ふ次第でありますが、併し世の中が次第に實用的人物の修養を要することになつたのは、讀者の注意を惹くに足る一現象かと思ひます。

結婚と事業

河原操子

▲妾は結婚す　私は近頃結婚を致しました、夫は正金銀行紐育支店副支配人一宮鈴太郎と申すものでありますが、八月初旬に夫と共に紐育に赴く都合でありましたが、少しく延びまして本月末に出發する積りであります。

▲結婚に就て　私は蒙古に居ります間は、とても生きて歸ることは出來まいと思ふて居りましたが、幸に戰爭も無事終局致しまして、安全に故鄕に歸ることが出來ましたから、此上は一層務勵して修養を積み、國家の爲に盡さうと思ふて居ります、而て私は結婚と云ふことは素より否認して居たのでありませんので、良緣があつたならば結婚する積りでありました、結婚したからと申して、國家に盡す仕事が出來ぬと云ふことはないと始めから覺悟をして居りました。

▲米國の敎育　豫て歐米に往つて敎育事業を研究致して見たいと考へて居りましたが、幸にも夫が紐育に在勤して居りますから、同伴して參つて紐育の學校にも入つて充分敎育事業を專修して歸りまして、再び蒙古に行き尚其の奧の方に入り込んで、支那の婦人敎育の任に當つて見たい考へであります。

▲結婚と事業　結婚したる女子は事業が營まれぬかと申すに、決してさうでないと思ひます、男子が事業を爲すに當つても女子がこれを助けて成功さした例は幾つもあります、現今知名の婦人と雖も皆結婚された方で、下田先生でも、三輪田先生でも、棚橋先生でも、皆さうであります、殊に奧村刀自の如きは今尚ほ夫が在らせらるゝと云ふことであります、是から考へましても、女子が結婚したからと申して、決して其活動が止まるものてはなく、夫婦相助けて以て君恩に報ゆる事が出來るかと思ひます、私が結婚したから申すのではありませんが、女子は獨立とか獨身生活とか當世風のことを申さず、機會の到來さへあつたならば之を取外さずして結婚をすると云ふことが、女子たるもの丶本分かと思ひます。

▲蒙古と米國　蒙古と申す未開なる土地に於て敎鞭を執つた身が、數月の內に最も開明の國と稱せらるゝ紐育府に渡つて敎育を受ける身になつたので、人生行路の測り知られぬ變化に就いて面白い感想が浮んで居ります、彼地へ渡りましたならば、最初に見た感念を善く書付けて又お目に掛ける事に致します。

當選披露

短篇小說其他本號に收むべき募集諸作品中各選者の詳密なる審査結果は左の如くに候

▲短篇小說　三島霜川　武內櫻桃　江戶靜川　三氏合選

一曉（壹等）　森田竹子
一紅芙蓉（貳等）　加藤いそ子
一結婚論（三等）　花輪余恵野

▲夏の敎訓　文學士下田次郎氏選

壹等　濱中けい子　二等　阿部さゐ子
三等　伏島たき子

▲夏の簡易なる小兒寢衣　ドクトル川瀨元九郎　糸左近　氏合選

一等　高橋きよ子　二等　荒瀨千勢子
三等　林浦子

▲小兒の夏の暮らし方　高島平三郎氏選

一等　中隈富士子　二等　富永才子
三等　阿部さゐ子

▲半ヶ年の家計　有島幸子刀自選

一等　上野芳子

音樂と其修養

東京音樂學校助敎授　藤井環子

▲唱歌と長唄　私は音樂學校に入る前には長唄を稽古しました、長唄の方では音聲の發し方を規則的に習ひませぬ爲に、長唄の素地で唱歌を謠ふと致しますと、低音から高音に移り替りの處で一種妙な音聲が出て、其繼合せが如何にも甘く行きませんので困りましたが、種々工風をして漸く其繼ぎ目を整へることが出來るやうになりました。

▲聲の出し方　日本の唄を敎へますものは、聲を出すのに腹の底から出すやうにと能く注意するやうでありますが、私共の聞く處では、只咽喉限りのやうに思はれまして、從つて地聲のみで聲に變化が乏しいやうに思ひますが、西洋の音樂家に就いて學ぶ處に依りますと聲を出すのに咽喉と胸と腹と頭腦とに響くやうに四通りになつて居りまして、發音の工風についても總て學術的に出來て居りますから、始めの修業は甚だ六ケ敷くありますが、謠ひ習ふに連れて種々變化ある音聲を規則的に出すやうになります。

▲樂聲と器聲　樂器は申すまでもなく死物であります、如何によき音聲を發するものでも、全く道具でありまして、感情的の動物ではありません、人の力を借つて始めて活動し、規則に依つて作られたる音聲の外は發せず、自然とか天然とか云ふことは器聲にはないのであります、然るに人の聲は感情的のもので天然でありますから、音樂としては一番美しいものであります、故に樂器に依つて發せらるゝ音聲は、恰も描かれたる草木の如きもので、人の唄ふ聲は天然に咲き匂へる花の如きものかと思ひます。

▲ピヤノと唱歌　人の聲はピヤノと同じ高音でありますが、夫れほど多く音聲の種類を持つて居りません、併しピヤノを彈じる曲の間隙と、唱歌を謠ふ聲の間隙を較べると、唱歌の方がより短く刻むてとが出來ます、殊にピヤノの音は一般的平等的の音聲で、個々的の感情を充分に現はすことが出來ませんが、唱歌の方は個々的であつて詳密な處まで謠ひ表はす事が出來、音と音との移り代りの處には少からざる妙味があるかと思ひます。

▲演奏壇上の感　私共演奏壇上に立ち公衆環視の內に在つて演奏する時は、其責任の重きを感じ、果して曲を無事に終るや否や、心配に耐へぬ心持ちがありますが、伴奏者の指が樂器に觸るゝと同時に氣分も替り、身は其演奏壇上にあるを忘れて名曲の中の人となり、無我無心作者の作りし曲の感情を心に描き、悲哀なる曲には心からして哀れを感じて謠ひ、勇壯なる曲には精神も又勇ましく感じて謠ひ、森の彼所に天女が紫の雲に乘つて天降ると云ふが如き美しい曲の時には、自ら天女になつたかの如く感じて謠ひます、斯る心でなくては聽衆の感情を動かすことは出來ません。

▲藝術の泉　藝術の泉は滾々として流れて盡きず、私共は孤舟に棹して其流れに浮びしと等しく、何れの時に彼岸に達するか謀り知ることの出來ぬのを恨みと致して居ります、毎日絶へず長時間練習は致して居りますが、名家の作られた曲は充分心の中で記憶したる後、屢々之を謠ひ試みて、始めて一曲を爲すと云ふ風てあります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

懸賞小說

武田櫻桃　三島霜川
江戸靜川　三氏合選

曉

（當選）森田竹子

今年醫科大學を卒業して、久振で故鄕に歸る僕は、何だか嬉しい樣なあつけ無い樣な氣がしてならぬ、午前七時上野發の列車に乘つて桶川の停車場に着くと、眞先に駈け寄つて

『兄樣！。』

と叫むだのは弟である、外に從弟と爺やが居つて、別に下男二人、是は僕の荷物を運ぶ爲に荷車を引いて來たのである、

それから十數丁の道を步いて家に着くと、最早母は待ち佗びて居られて、イソ〳〵と笑顏懷かしく出迎へられた、其後から恥かし相な丸髷姿が現はれた、チラと見ると何だか覺の有る樣な……、僕は都合有て三四年家に來なかつたら全然勝手が不明くなつて仕舞た、廣間へ通つて先暑かつたらうと母の出して與へられた浴衣と着替ると、父も入つて來られた。

『御父樣久々御目に掛りませんでしたが愈々御壯健て、私も御蔭樣で……。』と頭を下げると、

『イヤお前も壯健て、目出度いなあ。』と笑ましげに挨拶される、其中僕の知らぬ下女らしく無い娘が茶菓を持つて來た、と葦戸の處から頭をチョッ〳〵と出して此方を横目て見る兒がある「誰？」と僕が聲を掛けると、ツと引き込むで又頭を突き出す、母は顧みて

『美子樣此人はお前の叔父樣ですよ、さ此處へ來てお辭儀をお仕。』と云つて更に僕を見て

『此兒は菅さん（僕の姊）の子ですよ、お前は未だ初めてだつたねえ。』

『アッ左樣てしたか、姊樣の子、ア、何時か出產たと云ふ報知を得ましたつけが遂忘れて居りました、何歲？三歲！ア左樣ですか、早いものですね。』

斯ら話して居る中に美子徐々出て來をつて、母の衿に纏つて居る。

『溫柔しくするんですよ、さ、お叔父樣を扇いてお上げ。』と云はれてお茶引もう馴れて

『御叔父樣暑いてちよ、チヤあふぎまちよ〳〵。』と言ひながら團扇を持つて、僕の後に廻つて頻とあふいて居る、僕は

『御祖母樣も御壯健ださうですね、御目に掛りませう。』と立たうとすると

『祖母上は只今御熟眠入らつしやるから後で宜しい、マアお晝食の支度が出來たからお食り。』

との母の言葉にさらばと晝餉を父上と二人で食した、其中祖母上のお目が醒たと云ふので其室に行くと、大層喜ばれて、先出るものは老の淚である、當年八十三にしては丈夫の方なので、先年より少窶た位なものだ、不圖祖母の側を見ると晒の切が澤山あるので

『其品何てすか。』と怪しむで斯ら聞くと

祖母はハヽと笑つて

『お襁褓さ。』と云ふ。

母も側から笑ひながら

『お前が卒業すると御聞なすつてから、曾孫のお仕度を仕て置くて仰有てね、此樣に澤山。』といへば

『閑暇だからね』と祖母はいふ。

僕は呆氣に取られて言葉が出なかつた、母は膝摺寄せて

『實はね、私と菅さんとて內々御前の嫁さんを探して置いたの、最前お茶を出したのね、彼の娘だが如何てせう、尤も未だ能く極たと云ふ譯ではなし、お前が思はしく無いと云ふのなら斷り惡く無い樣にはして有が、而し私は彼の娘なら申分はなからうと思ふが、能う考へて、早く返事をして下さい。』

話は是丈て止て、夕餉は一同卓を圍むで認めるとにした、先刻見た丸髷姿も居るので、窃と母の袖を引き彼女は誰ですかと聞くと

『彼は篤ですよ、ホ、、、』と高く笑つたので一同が此方を向くと『兄樣がね、篤子を見て誰かと聞くの。』

母の言葉に皆大笑、僕はちと面目を失つて『是は失敗りました、日外父上から篤子が結婚する旨御通知がありましたのを忘れて、遂ひ未だ女學校に居ると而已思つて居りました。』

『アラ兄樣、私先刻御挨拶申上げましたに。』

『イヤ僕は急遽しくて困るよ。』

其夜は疲勞たらうとの母の心盡に早く床に就た、翌朝久振で故山の淸き空氣を吸ふ可く曉に起き出て、近くの野邊を彷徨ひながら、思ふは昨日母から聞いた事、一體母上も姊上も性急だ、僕にだつて少しは考が有らうぢや無いか、卒業早々何もそうしなくても宜い、餘り氣が利き過ぎても困る、が、而し母姊の見立だから大した間違も有まいが、僕も是から浪風荒い浮世に打つて出ねば成らぬ、例へば是からの生涯を一日に比せば今が丁度曉だ、今日は姊樣が來るそうだから能く相談仕樣、など思ひに耽つて居ると

『兄樣！變りましたねえ。』と不意を食はしたのは弟である。

『何が變つたか。』と僕は振向く

『何がつて私も御長くなつたてせう。』

然矣、弟は僕と九歲違ひの今年もう十六の中學三年生だつた、それから二人で種々懷舊談をやつてると

『叔父樣々々々々。』

と呼ぶ可愛らしい聲がする、見ると美子の奴が婆やに負ぶさつて來たのだ、弟は最う飛むで行つて其手を取つて、頰摺りを仕して居る、僕は言はれぬ心地に微笑を漏した。

何と云ふ氣持の宜い朝だらう、畔道には草刈る童がチラホラ見えて來た。（をはり）

東西名婦傳

ゲーテの妻

文學士　原弘毅

一記錄監督者の娘にして、父なき後の家計は一層の不如意を加へ、兄妹と共に叔母の家に寄寓し、花造會社に通勤する女工の身として、何事ぞ氏なき者の玉の輿、廿四歲の夏期に當り、身は天成の偉器を抱いて、心向上の琢磨を忘れず、ザクセン、ヴイマー侯國の首相にして、動物植物學上の大發見者たり、一度椽大の才筆を揮うては、古今詩界の四天王に數へられ、ホメール、ダンテ、セークスピアと比肩して、獨逸文壇の爲に萬丈の氣焰を吐き、之をして九鼎大呂よりも重からしめたる、フオン、ゲーテ氏の見初むる所となり、遠近億萬の才媛名姬をして、羨艷死に至らしめたる者を、我がクリスチアーネ、フルピウス（一七六四―一八一六年）となす。

此の提燈と釣鐘との身分の相異は、忽ち滿都士女の口舌を騷がしめぬ、之を羨望する者は自ら侮辱せられたるが如くに感じ、怨讟し譏詆し罵詈するに至る、特にシュタイン夫人の如きあり、宮廷の內外皆之に附和し、二人の關係を邪惡視する者、世間滔々として然らざるはなし、乃ちアウグスト產る、も、未だ結婚の式を擧ぐる能はざらしむ、然りと雖もクリスチアーネは、終に凡婦庸女に非ざりき、金髮豐頰の美は云はずもあれ、心飽くまで悲愛に富み、言行極めて快濶なり、家政に疎からずして舞技を能くす、一念悉く良人に捧げて、毫も我身の不遇を喞たず、世外に超然として、愛兒の教養に專心す、ゲーテ之を見て海底の眞珠に譬へ、或は林中の名花に比しぬ、乃ち南歐伊太利より歸りて、風光人事皆意に違ひ、無限の孤寂に呆れたる大詩人は、此に甚深の慰藉を得、門を閉ぢて客を謝し、詩神と交遊し學海に放浪するを得たりし也、況んや其の植物學上の研鑽を佐けて、良人をして「植物變體論」を大成しめたるが如きは、レントゲン、キュリー諸夫人と較ぶるも、寔に遜色なきを見る、夫の良人の手足を抑束し、或は其の面に泥する如き者は、穴に遁れて愧死すべき耳、ゲーテ氏亦好配を得たりと云ふべし。

一八〇六年十月十四日、エーナに勝ち誇りたる佛軍は、ヴイマー市中にも亂入し、抄掠と殺戮とを恣にせり、此日クリスチアーネは多數の避難者を指揮して、來るべき佛將オーシュロー元帥の接待を準備す、時に二名の佛兵あり、武器を擁して亂入し來り、ゲーテ氏と會飮せん事を迫る、氏は之を階上に避く、已にして酒氣の發するに及び、突如渠等は階梯を走せ登り、邸主を脅すに白刃を以てす、愛人の危急を見たるクリスチアーネは、脫兎宛然に飛び來りて、先づ身を以てゲーテ氏を回護ひ、渠等には數基の銀製燭臺を與へ、且つ急に家人の救を求む、主人爲に僅に其の難を免るゝを得たり、蓋し東方の姬氏國に在りても、稀に見らるゝ獻心的壯擧に非ずや、ゲーテ氏大に之に感動し、超えて五日、斷乎として結婚の式を擧ぐ、此後世人も之に關して、言を挾む者無かりしといふ、此の如くにしてクリスチアーネの眞價は、漸く江湖の認むる所となる、亦甚だ遲しと雖も、初め幸福なる不幸人と謂はれたる人は、今や幸福なる幸福人となりぬ、凡そ連城の名璧にして、夜光の美質を認められざる事無ければ也。

爾來僅に十春秋、北歐の花期に入りたる水無月六日、林中の名花再び春に逢はず、海底の寶珠遂に光を失ひ、嬌魂遽に天離りては、薰色關心復見るべからず、最愛の良人は其の手に縋りて、一向痛恨の淚に咽びぬ、其の日の日記の一節を見るに曰く「身內身外悉く空寂たり」と、其の香骨はザンクト、ヤコーブ敎會の塋域に瘞せらる、噫。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

半年の家計

有島幹子刀自選

▲壹等 東京 上野芳子

主人は某會社に奉職致して居るものであります、住居は黄塵萬丈の都の中の仙境とも申すべき、花は上野か淺草か、其鐘の音の最も近く聞ゆるほとりに住まつて居ります、春は花に宜敷く、夏は納涼に、秋は月に、冬は雪に宜敷き場所にて、建坪は手狹てありますが、甚だ廣い上野公園と云ふ庭を我物顔に使用致して居ります、朝夙に起きて、主人は子供を引連れ、公園内を散歩して後ち朝餐を喫し、夫れから會社に出るのを平常の掟と致し、日曜日には子供を連れて動物園、博物館、美術展覽會などを見せて知識の開發と、身體の發育とにつとめて居ります、讀書するには新たに建てられたる美しき帝國圖書館が、夜の十時まで開かれて居ります、同館の貸出圖書規定によつて、私共居ながらにして新著を繙くの便を得て居ります、二電車の交叉乘場に出るには十分時の外要しませぬ、野菜は市に赴いて新らしき物を買ひ調へる便があります、餘程儉約を守つた積りでも、半ケ年の剩餘金僅かに六十三圓餘て、實にお恥しい次第てあります、左表は其實況てあります。

項	目	一月分	二月分	三月分	四月分	五月分	六月分	合計
收入ノ部	先月越	円 150.000	円 157.950	円 170.170	円 180.400	円 191.320	円 202.190	円
	毎月收入高	50.000	50.000	50.000	50.000	50.000	50.000	300.000
	計	200.000	207.950	220.170	230.400	241.320	252.190	300.000
支出ノ部 飲食費	米代	5.250	5.000	5.250	5.200	5.000	5.250	30.950
	副食費	6.500	6.000	5.800	6.200	6.000	5.700	36.200
	味料	1.500	1.200	1.400	1.600	1.400	1.500	8.600
	菓子費	1.500	1.700	1.600	1.300	1.500	1.400	9.000
	牛乳代	1.800	1.500	1.400	1.500	1.400	1.200	8.800
被服費	被服費	3.000	2.000	3.000	2.500	3.100	2.100	15.700
燃料費	薪炭油費	1.000	0.800	0.900	1.000	1.100	0.800	5.600
住居費	借家料	5.500	5.500	5.500	5.500	5.500	5.500	33.000
	備品費	0.500	0.400	0.800	0.400	0.500	0.300	2.900
義務費	養親費	4.000	4.000	4.000	4.000	4.000	4.000	24.000
	子弟學費	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000	12.000
衛生費	藥礮	1.000	0.800	0.700	0.500	0.000	0.000	3.000
	洗濯賃	0.500	0.400	0.300	0.400	0.50	0.600	2.700
	湯賃	0.300	0.250	0.250	0.300	0.350	0.350	1.800
	衛生組合費	0.070	0.070	0.070	0.070	0.070	0.070	0.420
教育費	圖書購買費	0.500	0.400	0.500	0.400	0.500	0.500	2.800
	新聞雜誌代	0.250	0.200	0.280	0.420	0.300	0.300	1.570
	筆紙墨文具費	0.200	0.130	0.140	0.110	0.150	0.200	0.930
慰安費	交際費	2.500	2.000	2.100	2.400	2.400	2.000	13.400
	電車及人車賃	1.000	0.700	0.800	0.700	0.700	0.800	4.700
	通信費	0.8[illegible]0	0.400	0.600	0.400	0.300	0.400	2.900
	慈善費	0.200	0.150	0.200	0.180	0.180	0.200	1.110
保險費	生命	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000	2.000	12.000
	財產	0.180	0.180	0.180	0.180	0.180	0.18	1.080
	計	42.050	37.780	39.770	39.080	36.130	37.350	235.160
	差引計	157.950	170.170	180.400	191.320	202.190	214.840	63.840

備考

△慈善 婦人會々費には一時納金濟み毎月には托鉢僧其他寺院用に供す

△保險 主人の生命に千圓の保險付しあり財產火災に五百圓の保險を付す

△住居 八疊一間六疊一間四疊半一間台所付なり場末て空氣よき處を撰び住めり

△主人の嗜好 酒煙草を飲まず故に其費用なし可成徒歩主義を勵行し電車に乘らず

△家庭 主人主婦子供(十歳)子供(六歳)子供(二歳)六人家内なり

小兒の夏の暮し方

高嶋平三郎氏選

▲壹等 東京 中隈富士子

朝は必ず五時に起床、朝食までは庭園に出て、散歩、掃除、簡易なる野菜、草花家畜類、家畜と申しても養鶏、金魚、兎等の世話を手傳ひ、次に一時間半か二時間計り學校の復習、それより三時のお茶迄はなるべく外出さゝず、子供に相當なる雜誌、極く簡易なる手細工もの、繪畫、女子にて八九歳以上なれば、お茶菓子製造の手傳ひなどいたさせるもおもしろかるべしと思はれます、四時よりは庭園の水撒きを手傳ひ、夕食後は一家揃ふて近き邊りの公園などの散歩、さなくば庭園に出てゝ遊び、時にはお月見いたしなど致したならば、耐へがたき夏の日もおもしろく、樂しく暮らさせませうと存じます。

▲評 朝五時に起こすには晩に早く眠らしめねばなりません。小兒は年齡によつて睡眠に要する時間が違いますが十歳前後のものは十時間位眠らす必要がありますから此の年位の子供なら七時から八時の間に眠らしめるのです。又朝の十時頃から午後三時頃まで外出させぬといふのもあまり嚴格に拘泥してなりますまい。時には海岸や河原や山や野に遊ばしめるのも誠に必要です。晩餐後一家打揃うての散歩もよろしけれど涼臺の上にて父母兄姉がおもしろい話などしてやることも折々は至極よろしいことです。要するに此文は全體に渉りて實行し易く注意周到てすから第一に選びました。

▲二等 大阪 富永才子

私は旅行を御すゝめ致します、田舍の方はさる必要も御座いますまいが、當地の如き煩雜な所に住つて居る兒童は日々煤煙の中をくゞつて學校へ通ふのですから、せめては休暇中だけでも空氣清新なる土地をえらんで生活さするのがよからうと存じます、それもなるべくならば海濱がよろしう御座いませう、そう致しますればもう小兒は非常によろこんで常よりは一層運動を盛んに致しますから、從つて身體の發育も宜しう御座いませうし、また自然の風物より得るところの知識は決して少くないと存じます、とにかく休暇中は不規律に流れぬ限り、兒童の心にまかせて、樂しう快濶にあそばす事が肝要であると存じます。

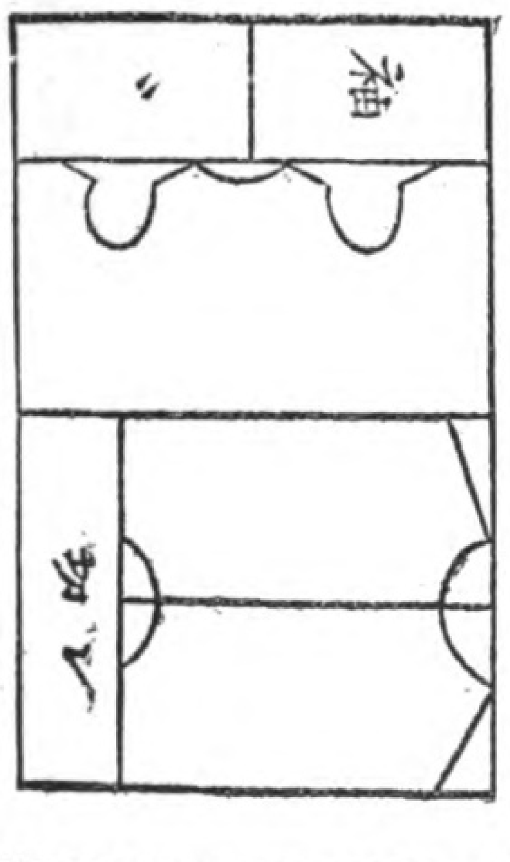
▲評 旅行はまことによき消夏法の一つてあります。施行の利益は御說のとほりてす。併しいづれの家ても皆旅行せしめるといふことは出來ませんから此外一般に行はれることを擧げねばなりません。とにかく以上の御注意は至極よろしいことゝ私も賛成いたします。

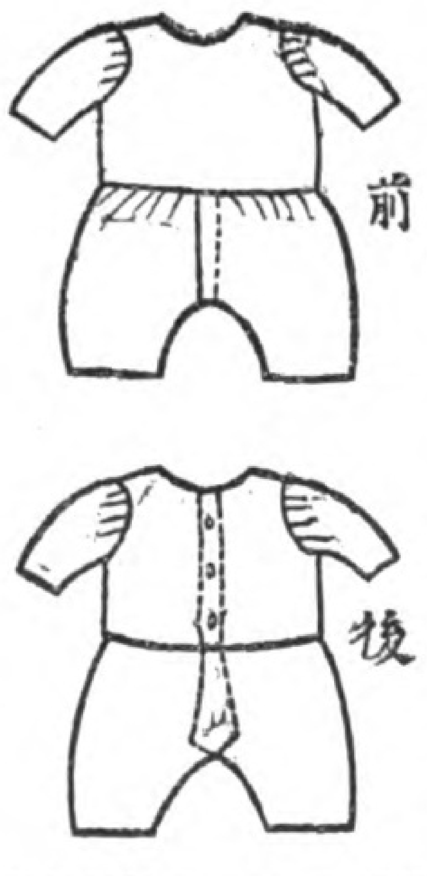
夏の簡易なる小兒寢衣

ドクトル 川瀨元九郎氏 糸左近氏 合選

▲壹等 長野 高橋きよ子

左圖は、私の宅に於て實行致して居ります小兒の寢衣でありますが、夜中に布團を脫ぎ、轉び出しても風邪を引かぬやうにして居ります、普通日本服の如き作り方では裾がまくれて、腹部を冷す恐れがありますから、必要上拵へたのであります。

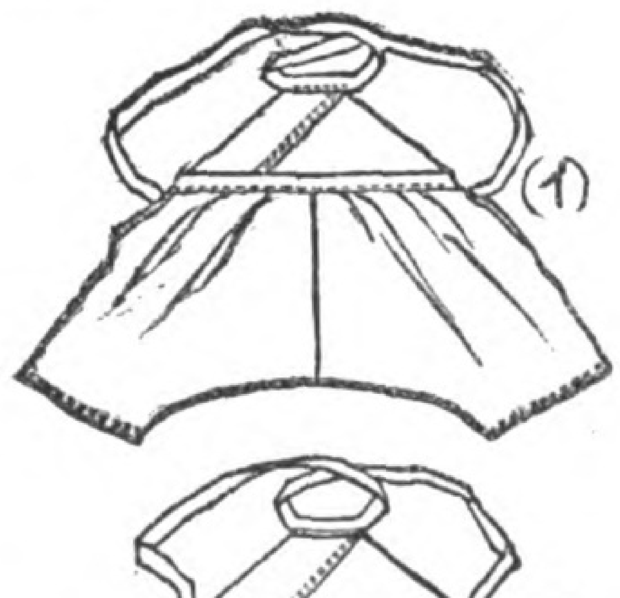


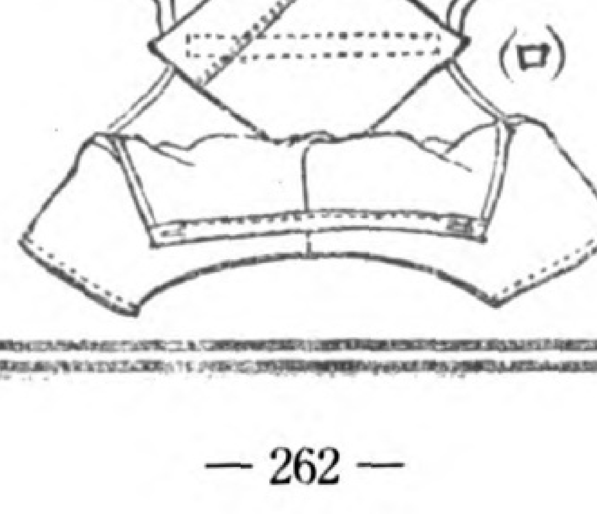


▲余の考案したる小兒寢衣

選者 川瀨元九郎

余の考案で作つた簡易なる小兒寢衣は左圖の通りである、(イ)は表(ハ)は裏(ロ)は其表裏を開いて見せた處であります、日本で作つた多くの雛形には用を足す處が皆開かれて居りますが、夫れては不體裁てあります、袴は後から釦で止めるやうになつて居ます、小兒でも其釦を外せば用を足します、これは寢衣のみならず一種の胸當て晝も之を着せて居ります、つまり昔風の腹掛と股引とを合併して作つたものであります。





▲寫眞▲

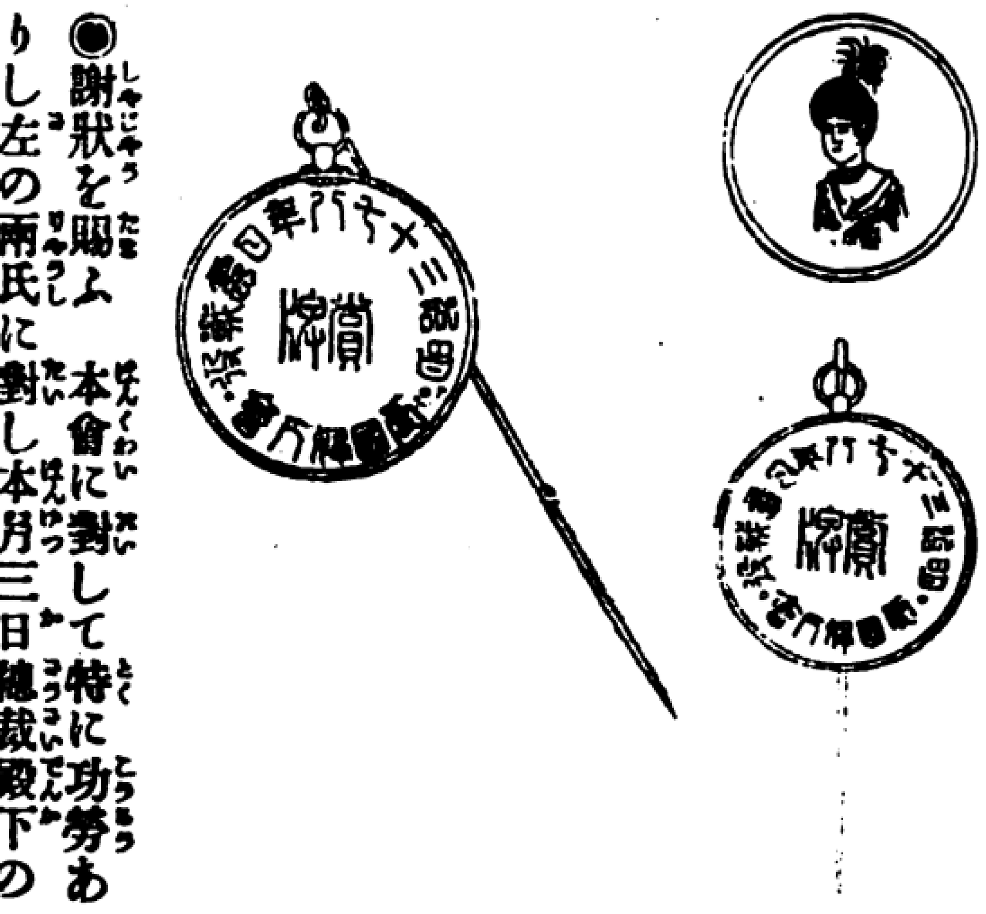
短文、和歌、俳句、投稿諸姉の御寫眞至急に頂戴仕り度候

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◉總裁殿下支部御台臨　來る九月下旬山形支部及秋田支部に於て開催する支部總會に總裁殿下御台臨の義決定せられたり

◉紀念賞牌　日露戰局に關し本會會員にして本會の本旨に基き活動盡瘁し功績ある會員に對し賞牌を製作し日露戰局の紀念として贈與すべき紀念賞牌は左圖の如く決定し表面に總裁殿下の御肖像を彫刻し裏面に「明治三十七八年日露戰役愛國婦人會」の文字を彫刻したるものにて金製銀製銅製の三様に調製する筈なり



◉謝狀を賜ふ　本會に對して特に功勞ありし左の兩氏に對し本月三日總裁殿下の御名を以て左記の謝狀を贈與したり

中山幸子氏

本會評議員及東京支部評議員並同支部幹事囑託以來專ラ事業ノ擴張ニ盡瘁シ多數ノ入會者ト許多ノ寄附金者トヲ紹介セラレシノミナラズ自ラ寄附セラレシ金員亦前後壹千圓餘ニ至ル熱誠一貫其成績群ヲ拔クト謂フベシ依テ特ニ謝意ヲ表スルモノナリ

渡邊源子氏

東京支部幹事囑託以來專ラ會務ノ擴張ニ盡瘁シ自ラ紹介セラレシ所ノ入會者殆ド壹千二百名ニ近ク寄附金者ヲ紹介セラレシコト亦尠少ニアラズ目下會員增募ニ當リ不屈不撓益々竭力セラルル所アルヲ聞ク其成績勤勞ト共ニ群ヲ拔クト謂フベシ依テ特ニ謝意ヲ表スルモノナリ

◉支部長及顧問囑託　今般各府縣知事の交代に伴ひ本會に於ても本月八日左の通り支部長及び顧問を囑託したり

支部	氏名
群馬支部長	有田滿壽子
同　顧問	有田義資
奈良支部長	川路水尾子
同　顧問	川路利恭
岐阜支部長	小倉田鶴子
同　顧問	小倉久
福島支部長	平岡なつ子
同　顧問	平岡定太郎
山形支部長	馬淵よし子
同　顧問	馬淵鋭太郎
鳥取支部長	山田天代子
同　顧問	山田新一郎
岡山支部長	寺田春子
同　顧問	寺田祐之
德島支部長	谷口美代子
同　顧問	谷口留五郎
宮崎支部長	永井兼子
同　顧問	永井環
大分支部長	千葉子
同　顧問	千葉貞幹

◉奧村刀自　八月十六日無事歸郷せり

◉寄附金披露　其の後金拾圓以上の寄附金者左の如し

一國庫債券額面百圓	高崎高等女學校生徒總代	鈴木雄二郎
一金貳百圓	廣島縣	眞鍋斌
一金五拾圓	佐賀縣	吉原政道
一金五拾圓	兵庫縣	岸本いく子
一金四拾圓	日本橋區	藤澤すな子
一金五拾圓	四谷區	波多野爲子
一金貳拾圓	廣島縣	河野葭一
一金拾圓	小石川區	跡見女學校厚德會
一金拾圓	廣島縣	松本雪子
一金拾圓	群馬縣	黑岩佐太夫
一金拾圓	岡山縣	共愛女學校內愛憐會
一金拾圓	福岡縣	服部六郎

▲正誤　前號の本紙に子爵松平直敬氏を元本會顧問とせしは本會事務長の誤也

各地支部狀況

▲東京支部　授産婦人會より軍人遺家族授産事業引繼を受けたる後ち舊事業を其儘繼續し尚着々其歩を進め居れるが赤坂區の方には日々五十名位ゐ牛ヶ淵公園內には平均十名位ゐ執業し居れり尚各所に分工場を設くる計畫なり

▲北海道支部　支部總會を來る九月二十三日頃札幌區中島遊園地內に於て開催する筈にて目下專ら準備中にて總會の來會者に配布する紀念品金色製櫻花形の徽章は夫れ〳〵調製に着手したりといふ

▲青森支部　同支部の職員は手を別ちて郡內の遺族廢兵の慰問幷に會員募集の爲め各地へ出張し好成績を修めつゝあり

▲京都支部　與謝野幹事部總會を開會し同地出張中なる奧村刀自も臨場したり

▲靜岡支部　本部遊說員富樫眞喜子氏同支部內に出張各所に於て演說會を開催し專ら會員の勸誘につとめ居れり

▲三重支部　本部遊說員野中やち子氏同支部內に出張各所に於て演說會を開催し專ら會員勸誘につとめ居れり尚前號所載の記事中阿山郡幹事部總會には有松支部長も出張熱心盡力せられたりと

▲函館支部　北海道支部總會を開催につき同支部に於ても第一總會を開催せんとて此程協議會を開催したりと云ふ

▲香川支部　會員募集上につき協議會を開き各區受持幹事よりして募集の狀況報告ありしが意想外の好成績にて新入會員殆んど五百名に達し互に其の辛勞を慰め尚將來募集の方法を協議して開散せり

▲和歌山支部　會員募集の爲め支部長淸棲伯爵夫人より各幹事部長に對し會長の旨を受けたる長箋の依賴文を發送したり

▲臺灣支部　宜蘭廳管內にて隘路工事に從事して負傷したる中川理之輔なる人に對し義足料を贈與せしよし

渡韓途上（七月廿一日發）

萩山より　堀內文次郎

拜啓、小生東京出發即ち二十四日以來本日まで未だ一滴の雨を見ず候、其代り炎熱熾くが如く廣島馬關邊は日々九十度に相成り申候。

三十日夜十時對馬丸にて下ノ關を出帆致し候、一等船客は小生一人のみにて、話相手は無之候へども甲板上の明月を友として淸風に吹かれ、安樂椅子に倚りながら點々たる漁火の見へつ隱れつするを詠め居る間は、別に憂き事も思ひ出でざりき、十一時前六連島を過ぎてよりは、島一島次第に數を減じ、前途茫々只高く七曜星のかゝるを見るのみ、茲に於ては人情の自然「本島を離れつゝあり」、「評議員會等にて皆様にお目に懸かる事も暫くは六ヶ敷し」など、何んとなく聊か悲觀を交へたる感念も生じ來り申候。

頭を回らせば昨年の今月廿四日、而も小生出發の日は奉天に於て兒玉大將が、大雷雨に道を迷はれ、夜二時頃我が宿舍に飛び込まれたるに依り、我れは我が毛布を差上げて暫時お寢かし申したる事ありしに、今は幽冥所を異にし、呼べども絕へて答へなし。

又昨年の今三十日は山縣元帥に隨つて大連を出帆したる日なり、尚ほ小村大使は米國に在り、和戰何れに歸するや未だ知るべからず、帝國前途茫々乎たるを以て昨年の今夜船中に於ける感念と今年今夜の胸に浮ぶ所とは、自ら大差ありとは云ひながら、昨年は今日大連を發して馬關に向ひ、今年今夜は馬關を發して韓國に向ふ、人間の動機も妙なものに候。

愛國婦人會々員女子人口比較表（明治三十九年七月末日調）

支部名	特別會員	通常會員	合計	三十六年末女子人口	女子人口百人ニ付會員比例	贊助員
石川	一、九七一	一九、六五一	二一、六二二	三八五、四七八	五、六一	七九二
山口	八二〇	二六、三三七	二七、一五七	五〇六、九二〇	五、三六	一、〇七五
山形	八二二	一七、二七七	一八、〇九九	四三九、六一八	四、一〇	一四三
岡山	一、〇四〇	一九、七〇四	二〇、七四四	五七七、二七二	三、五九	三六三
熊本	二、八二一	一六、六五五	一九、四七六	六一〇、四一一	三、一九	二、三〇二
富山	八一三	一〇、六八三	一一、四九六	三八四、九八二	二、九九	六四三
京都	二、一一九	一三、四九四	一五、六一三	五二一、三九五	二、九九	三六九
愛知	一、一九八	二四、一六一	二五、三五九	八六八、五三八	二、九二	六三一
群馬	一、三七八	一一、七四八	一三、一二六	四五四、一七一	二、八九	一八六
香川	七八三	九、〇九七	九、八八〇	三四七、八九〇	二、八四	三四九
兵庫	二、〇五〇	二三、一二七	二五、一七七	八九三、七三四	二、八二	四八〇
福岡	二、四〇三	一八、九六七	二一、三七〇	七七二、七四三	二、七七	九五四
北海道及函館	二、七三五	一一、二八五	一四、〇二〇	五〇七、六三八	二、七六	一、〇五九
長崎	三、一〇四	一〇、〇五六	一三、一六〇	四八九、三五〇	二、六九	五二
宮城	一、四三四	一〇、二七六	一一、七一〇	四四五、〇四七	二、六四	七〇七
愛媛	三五九	一二、二二二	一二、五八一	五一一、三九六	二、四六	二八三
大分	七九八	九、四九七	一〇、二九五	四三〇、〇二五	二、三九	四一七
青森	一、〇四四	六、六一九	七、六六三	三二二、二一一	二、三八	二四七
神奈川	一、三七〇	一〇、三九九	一一、七六九	四九九、六二三	二、三六	二六二
島根	二九九	八、〇四〇	八、三三九	三六二、六三五	二、三〇	四〇二
佐賀	八二二	六、三五〇	七、一七二	三二七、六七八	二、一九	一九四
福井	八〇一	六、一二四	六、九二五	三二〇、一五四	二、一六	九八八
奈良	二九一	五、六三二	五、九二三	二七八、一九一	二、一三	三二一
高知	二五三	六、四二三	六、六七六	三一八、二四九	二、一〇	六一三
三重	三九六	一〇、四〇六	一〇、八〇二	五二二、〇四三	二、〇七	三四三
岩手	六五七	六、八六六	七、五二三	三六九、二七八	二、〇四	二〇六
宮崎	二四〇	四、七四六	四、九八六	二四七、二五二	二、〇二	四四七
福島	一、一三九	九、四四二	一〇、五八一	五八二、一五六	一、八二	五二五
滋賀	三九一	六、一三五	六、五二六	三六四、六八八	一、七九	二、七五五
東京	七、二九七	一一、九六四	一九、二六一	一、一五七、五一四	一、六五	五〇三
德島	三一四	五、四二八	五、七四二	三五二、六〇八	一、六三	八〇
大阪	二、九九五	一〇、九二七	一三、九二二	八六三、四〇五	一、六一	一、〇二六
廣島	一、三九二	一〇、〇三三	一一、四二五	七四六、六五五	一、五三	七〇一
千葉	九五九	八、三九一	九、三五〇	六五六、七八二	一、四二	二八〇
茨城	五三〇	六、九三〇	七、四六〇	六〇〇、四一三	一、一八	五六
山梨	二七四	二、九四九	三、二二三	二七二、一四八	一、一〇	一三四
鹿兒島	一、〇三五	五、四六一	六、四九六	五九四、九八五	一、〇九	三三五
秋田	四九五	三、六九二	四、一八七	四〇三、九四六	一、〇四	一、二七三
和歌山	二六四	三、二三二	三、四九六	三五〇、〇六九	一、〇〇	三七一
鳥取	一六一	一、八七七	二、〇三八	二一七、五四一	、九四	三六九
埼玉	三五四	五、二七八	五、六三二	六二七、五五六	、八八	三九三
岐阜	六四一	三、七一一	四、三五二	五〇二、六五八	、八七	四一九
沖繩	三二一	一、三二〇	一、六四一	二三九、五二七	、六九	九三
長野	四七六	三、九五〇	四、四二六	六七四、五一五	、六六	五一九
靜岡	四九六	三、五九九	四、〇九五	六四〇、八四八	、六四	七一
新潟	六七二	四、三三四	五、〇〇六	八九九、〇二一	、五五	八一九
栃木	二八四	一、八一九	二、一〇三	四五〇、一二六	、四七	一六三
臺灣	一、〇七九	三、三〇〇	四、三七九	一、四〇二、七七一	、三一	八、三七九
海外	七三二	二、一二二	二、八五四			二、六七六
合計	五五、一二二	四五一、七三六	五〇六、八五八	二五、三一三、〇四〇	二、〇〇	三六、七五九

備考　支部の配列は會員比例數の多きものより順次配列す
北海道及函館の兩支部會員は合算して掲載せり而して函館支部會員は特別會員四百八十九人通常會員千五百九十五人にして他は北海道支部會員數なり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會

印度新聞記者の日本婦人觀

江戸靜川

この篇は印度の新聞記者エス、エン、シング氏が、日露戰役に於て空前の大捷を得たる日東帝國の母及び姉妹を觀むが爲め遙々來朝し、其の目的を達して東京を去らむとするに際し、記念の爲め記述したるものなり。

自分は印度の新聞記者である。

戰爭に强い日本の平和の國情は如何であるか、亦た世界に見る勇武の國民を作り出したる母、幷にこれが姉妹を親しく觀るべく自分は日本に來た、その來たるに就ては日本に入るに先つて亞細亞の諸國を見て置くの必要がある、开處で印度より緬甸に來たり、夫れより海峽殖民地、支那を經て長崎に上陸し、東京に入つたのは櫻花が向島に白き雲、紅の霞と見紛ふばかり咲き誇つて居た時であつた、滯在こゝに殆ど半ケ年、この間に於て自分は日本女子大學校、女子高等師範學校を始めとして、各種の女學校、幼稚園までもクドクド參觀した、殊に日本女子大學の如きは二日間も參觀を續け、成瀨校長、麻生學監とも語り、學生とも親しく言葉を交ゆるの機會を得た、而已ならず英學に堪能なる津田梅子氏其他交際社會の婦人にも數度接見し、外國人として自分ほど日本婦人を深く研究したものは他にあるまいと思ふて居るのである。

▲日印婦人の懸隔

日本が何故亞細亞諸國に對して兄たり先進者たるかと云へば、それは婦人の敎育が行屆いて居るからであると答へることが出來る、自分の聞く所に依ると、日本の婦人は九割五歩まで讀み書きが出來ると云ふに對して、吾が印度の婦人は最近の報告に依つて見ても、百四十四人の内で僅かに讀み書きの出來るものは一人しかない、一は九割五歩に一は一人と云ふ、日本と印度の懸隔は开處にある、日本では初等敎育は男女共に强制的の敎育法があつて、如何なる階級でも或る一定の年限までは學校に行かねばならぬが、印度にはさう云ふ制度も組織もない、と同時に婦人が習はんとしても「お前は書記になるか番頭になるか」と云つて、讀み書きをする婦人を卑しめる風がある、然るに日本には幼稚園から小學校高等女學校と敎育の順序が立つて居る、單り高等女學校のみならず既に女子大學まで設けられ、猶ほこの外に美術、音樂、技藝、體育等の學校があり、盲目の婦人を敎育する學校までも出來て居る、この點は亞細亞の諸國の婦人に比して、日本婦人の幸福である、斯くの如き敎育を受けて、一方に於て善き母となり、善き姉妹となり、善き朋友となる日本の婦人は、亞細亞の諸國婦人と異つて、社會に有用として獨立力も養はれ、社會に處する道をも敎へられて居る。

▲五個の感想

或る女學校を參觀した時に、其の學校に吳汝綸の書いた「國無棄材」と云ふ額の懸かつて居るのを見た、流石に吳汝綸は豪い、日本には一人も無用の人がないとは、能く日本現代の國情を明らかにしたものである、自分はこの額を見て非常に感じたことである、聞く所に依れば、日本に於ても今から十年十五年前までは婦人の高等敎育は得られなかつたと云ふことである、然るに斯く迅速の進歩發達をなしたとは、實に夢を見るやうな次第である、さうして現狀――九割五分――に滿足せず、猶ほ進むで行くとは誠に感心である、要するに自分の日本婦人敎育に對する感想は

第一　婦人敎育は總ての階級を通じて一般に渡らせる事

第二　初等敎育に於て、貧富、貴賤、農商を問はず、一樣に義務敎育を勵行されて居る事

第三　單に精神上知識上の敎育のみならず、併せて體育も重んぜらるゝ事

第四　單に婦人に敎育を與へて、生存競爭に堪へしむるのみならず、更らに活社會に出て、働かしむる事

第五　敎育は總て實行的である事

▲家族主義と婦人の勢力

日本の婦人が如何に國家に對して盡して居るかと云ふことは、愛國婦人會の如き團體を見ても分かる、斯かる有力なる後援あるが爲めに日本は今回の戰爭に勝つたのである、亞細亞が歐羅巴に勝つたと云ふことは、有史以來未だ曾て無いことである、夫れから聯想して日本では婦人を敎育するにも、國家の爲めには犧牲と云ふことをも敎へられるのを知つた、日本の家族主義は要するに是に基因して居る、夫れから或る日本に關した書物を讀むだ中に、日本婦人には三從と云ふ敎訓がある――處女時代は親に從ひ、嫁しては夫に從ひ、老いては子に從ふ――のを見た、婦人にこの柔順あつて初めて圓滿なる家庭の作られることを承知し、日本に來て其の家庭を見てます〳〵感じたことである、斯樣に日本婦人は柔順であるから活動的でないかと云ふと、さにあらず、日本婦人は亞米利加流の活動的ではないが、左ればと云つて社會に勢力のないものではない、社會に有用として其の勢力は認められて居るのである。

▲世界第一の看護婦

自分は女學校の外に重なる病院をも參觀した――日本の醫術は世界に有名なものである、さうして一つの大なる感想を得た、夫れはこの病院に奉職して居る看護婦に就いてゞある、看護婦としての日本婦人は世界第一であるを認めた、彼女は患者に接するに常に微笑を湛へて居る、彼女が患者を取扱ふに少しも荒々しい所がない、扉の開閉、廊下を步むも靜かにして、しとやかである、彼女は步き方一ッでも看護婦たるの資格を有して居ると云つてもよい、夫れから彼女の對話に至つては、實に天來の福音を聞くが如く、穩かにして少しも角張つた所がない、果然赤十字に於ても日本の看護婦は世界に好成績を示して居る。

▲繪畫的服裝と美術的頭髮

歐米の或る記者は、日本婦人の服の色は配合がよくないと云つて居るが、自分の見る所を以てすれば、日本婦人の服は世界に比なき繪畫的である、殊に若き婦人の服は華美で、紅、紫、靑、白、諸種の色で飾られて、非常に美しい、また帶は最初見たる時には滑稽に感じたるが、見馴るゝに從つて、今では美術的に見へるやうになつた、頭の髮は、これまた世界に類のない、技術を要し精巧を盡した美術的のものである、殊に自分の善き服裝として贊辭を呈したきは、袖の長い服に袴を着け、奇術師の道具にてもありさうな下駄と云ふものを廢して靴を穿つた姿である、非常なる美術的で、婦人の服裝として、恐らく世界にこれほど適當のものはあるまい、途上外國人の眼に最も美しと感じ、後振り返つて見らるゝのはこの女學生の服裝である。

▲幸福なる婦人の自由

斯くの如くして、始めて日本婦人を見たる吾々外人には、日本婦人は亞細亞流であるか、歐羅巴流であるか、ちよッと其の判別が附かぬのであるが、能く觀察を遂げて見ると、日本婦人は亞細亞流でも、歐羅巴流でもない、日本婦人獨特の長所あることが分かつて來た、また日本婦人は亞細亞諸國の婦人に比して非常に自由なる幸福な婦人であるのを知つた、其の事實は、日本では婦人が戶外に出て步いても誰も咎めぬ、非常に自由である、緬甸とか暹羅では其の國情からして、婦人の外出は自由であるが、日本は夫れより猶ほ一層自由である、殊に印度――支那も同じく――ではパルダー制度と云つて、婦人は戶外に出さぬことになつて居る、日本婦人が亞細亞の他の國の婦人より幸福なるとは是れでも分かる。

▲日本婦人の將來は如何

自分は日本婦人今後の進化につきて少なからぬ注意を拂つて居るのであるが、日本婦人社會は今恰度過渡の時代であつて、この時代は善きことの少ないものである、今日の日本婦人は過去の生活風習と違ふことを爲しつゝあるのである、夫れで今後の婦人はこの過渡時代を經過して亞細亞と歐羅巴との中間に立つて善き事をすると云ふに誰も疑ひを挾むものはあるまい、今の時代に於ては、いろ〳〵試みて其の結果を過ることもあるであらう、併し假令それが過ちであつたにしても、この時代に經驗を積むと云ふことは、必ず好結果を產むと云ふことに歸着するのであるから、忍耐と云ふことを忘れなかつたならば、將來の日本婦人は非常なる幸福を得て、亞細亞にも歐羅巴にもない善き婦人となることを確く信じて居るのである。

繪ハガキ分配案

本誌が每號募集する和歌俳句の繪ハガキが澤山たまりましたから、是れを和歌俳句投吟諸姉に限り、何かよき方法を以て、怨ッみこのないやうに布配したいと思ひます、お互の筆績や吟詠を交換する、誠に樂みなことであらうと思ひますから、何うか面白い方法を考へて下さい、この企ては大阪の富永才子姉が發案に基いたのであります。

分配方法の御通知は、來る八月三十日限りといたします。

▲當撰諸姉へ申上げ候

銷夏號當選諸作品は紙面の都合に依り本號より逐次掲載する事に致候。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

鳩の花束

三島霜川

一人て、おとなしく、してゐる人には、きッと好いことがあります。昔、ある田舍の富豪に二人の娘がありました。兩人共に大層奇麗な方でした。而ると、此の娘等に使はれてゐるお小間使てお雪といふ娘がありました。お雪は、顏も奇麗てありましたが、心は其よりも奇麗て、それこそ雪のやう。

一體お雪の御主人といふ人は、姉娘にしろ妹娘にしろ、また其の阿母さんといふ人にしろ、富豪に似合はない、慾ッ張て横柄て、少し心掛の好く無い方等てした。それてお雪は、隨分いじめられてゐたのてしたが、何しろ耐忍の强い娘のことてすから、主人の謂ふまゝになッて辛い御奉公をして居りました。

此の富豪のお家に一羽の鳩が飼ッてありました。鳩とお雪とは大變に仲が好くッて、お互に御主人の手酷いことをなさるのを悲しむて居りました。その筈てす。鳩は、富豪のお家に飼はれてこそゐましたけれども、うまい餌を一ッ貰へるのでは無し、何うかすると兩人の娘等のおもちやになッて、人間にして見たら隨分苦しい目に逢ッてゐたのてございます。ところて、お雪は、自分のお給金のうちから、鳩の好な豆を買ッて遣ッたり、または頭を撫てゝ遣ッたりするものてすから、鳩の方ても大變にお雪に馴れてゐました。もし人間のやうに口が利かれたならば、

「私は、大變に貴方のお世話になりました。貴方のやうに、同情のあるおとなしい方には、何か御恩返しをしなくてはなりません。いや、私が御恩返しを致しませんても、天が必ず何かお惠みになるてせう。」

と此ういふやうに、くッ、くッ、くッ、くと啼いて、お雪の肩の上に棲ッたり、または懷中に抱かれて、眼をパチッリさせて居りました。

ある時のことてした。不意に鳩の姿が見えなくなりました。姿が見えなくなッたと謂ッては妙てすけれども、朝、籠を飛出した鳩が、晩になッても歸らなかッたのてございます。お家の方等は、「何有、鳩が見えなくなッた。畜生、何處へ逃げて行ッたな。那でも七十錢ばかり出して購ッたのだ、惜しいことをした。」と謂ッて居りました。娘等はまた、「居た者が居ないと淋しいから、今度は二圓も三圓も出して、もッと好い鳩を購ひませう。」と謂ッて居りました。そして二三日もすると、鳩のことをすッかり忘れて、新らしく購ッた鸚鵡を可愛がッて居りました。けれどもお雪は然うて無い。鳩のゐなくなッたのが、悲しくもあり、心配にもなッて、毎日鳩のとを考へて居りました。

「何處へ行ッたのだらう、猫か鼬に喰べられて了ッたのてはあるまいか。何うかして無事にゐて吳れると可いが！」と恰て眞ンとの妹の行方が知れなくなッたやうに胸を痛めて居りました。

やがて二週間も經ッてからのとてした。ある晩方、鳩が、ひよッくりお雪の眼前へ飛んて參りました。お雪は、悅しくて、

「ま、よく歸ッてお出だッた。」といきなり、鳩を抱かうとすると、鳩は、ばたばたと高い樹の上に飛上ッて、

「私は。あなたの幸を持ッて來たのです。」と口に啣えてゐた、それは見事な花束を、バタリ地へ落して、「お雪さん、あなた其の花束を持ッて、明日の晩方、此の家の門のところに立ッてお出なさい。然うすると、あなたは此の國て一番尊い御身分の方になれます。私も今、新らしく好い御主人を持ッてゐます。」

＊　＊　＊　＊　＊　＊

次の日の晩方、お雪は鳩に謂はれた通りにして居りました。すると其の國の國主の若殿樣がお馬に乘ッてお通りになつた。後のお話は解ッてゐます。ツマリ、お雪は、若殿の御殿に住はれる身分になッたのてあります。鳩は、お雪よりも先に、若殿のお傍に飼はれて居たのてございます。

▲雷の御眼玉

夕立が來るのか、雷がゴロゴロ、稻妻がピカピカ。

いたづら盛りの五歳にお成ンなさる坊ッちやん、表から慌てゝ家へ飛込むで來て、母樣に縋りつき、

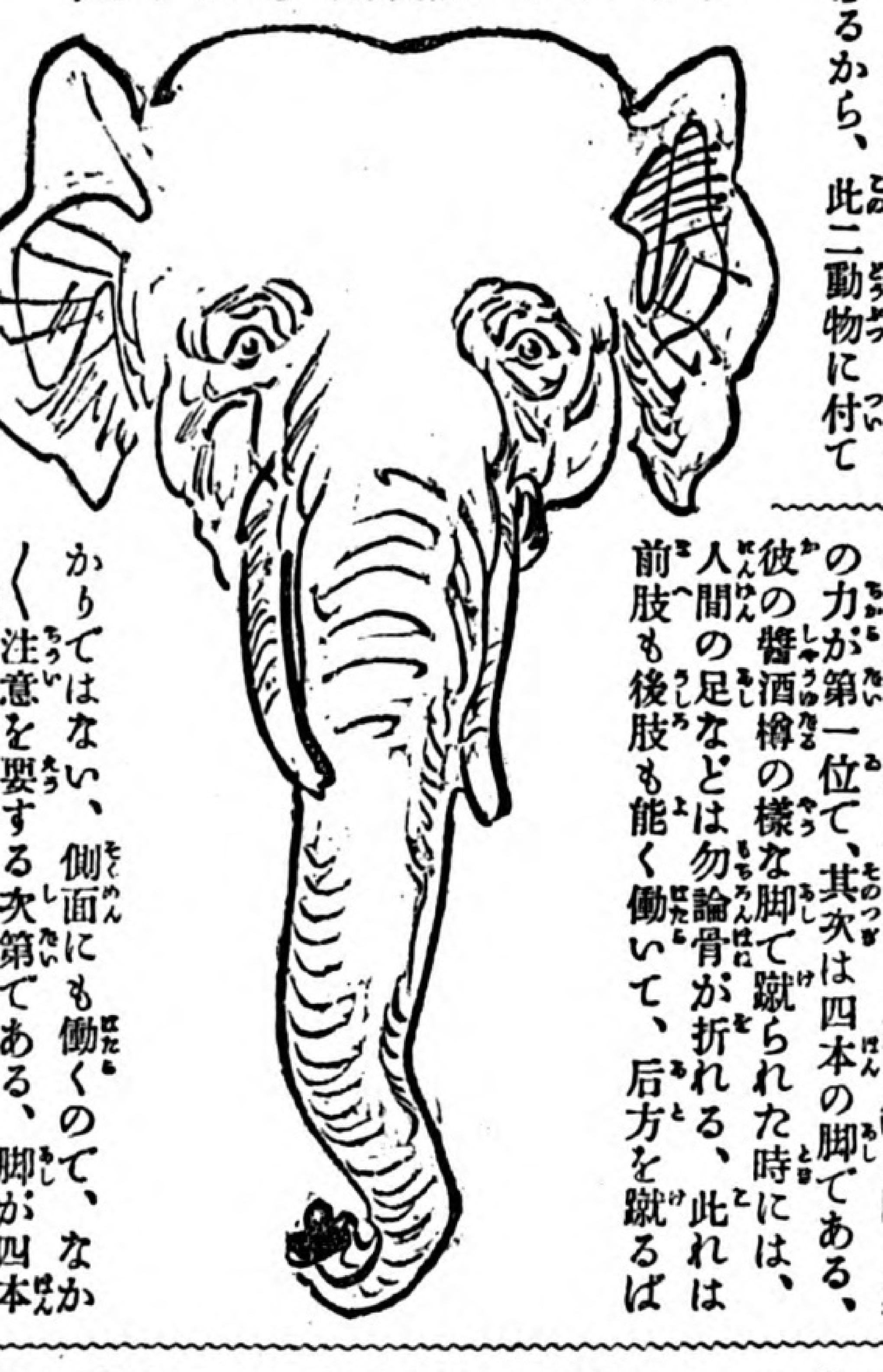
「坊が惡いことも何んとも爲ないのに、雷ッてば憤ッて、あれ、あんなに眼玉を光らせます。」

花屋敷の大立物

獸醫　入江濤吉

花屋敷にある諸動物中の大立物は、先づ獅子と象とてあるから、此二動物に付て話をしませう。

花屋敷には象が牝牡二頭居るけれども、別々に買ひ入れたので夫婦てないから、年齢に大變の差がある、牝は僅に十歳てある、象の十歳は人間ならば漸く匍ひ得られる位の赤坊てある、其れは何故かと云へば、象は三十年にして漸く一匹前になるのてあるから、十歳と云へばほんの子供て、時々てない常に乳を飮まねばならぬ位の齢てある、けれども其重さは大したもので、十歳で千二百貫目ある、馬は痩せ馬でも百貫と申しますが、普通九十貫位であるから、普通の馬を十頭集めた位の重さてある、そんな子供てあるから食物も少してあるだろうと思へば、なかく大食て、子供の僻に一日に藁二十貫目と、米五升と、水二斗と、ブランデーを少しと、籾麵麭少量とを食べて了ふ。



牡の方は何うかと云へば、年齢が九十歳て、人間なら小學校を卒業して、是れから中學校にでも入學しやうと云ふ年齢て、未だ少年時代てある、これの重さは何程あるかと云へば、匆驚二千五百貫目ある、其れて食物は、一日に藁五十貫と、水三斗と、ブランデー一本と、米八升と、麵麭と、砂糖少量とてある、大した動物が世の中に居たものてある、體重が其位あるから、力量も大力て、四十貫目の鐵棒を自由に鼻て振り廻はすこと、吾々が食事に於ける箸の如くてある、平和の時は優しいが、少し怒ればなかく近くことは出來ぬ、象は六箇の武器を持つて居る、其内正面より來る敵を防ぐ鼻の力が第一位て、其次は四本の脚てある、彼の醬酒樽の樣な脚て蹴られた時には、人間の足などは勿論骨が折れる、此れは前肢も後肢も能く働いて、后方を蹴るばかりてはない、側面にも働くので、なかく注意を要する次第てある、脚が四本て鼻が一つ、其れて五箇の武器となる、今一つの武器は何かと云ふと、夫れは尾てある、後側方に在る敵は、後肢又は尾て防ぐのてある、彼の短かく細かい不器用な尾が、大した力を持つて居るので、其の尾て人間の顔でも打たれたら、顔面は屈曲するのてある、怒つた時は、私共ても近くに行けぬけれども、此れに食事を與へて番をして居る人の命令は能く聽き分ける、如何に怒つた時ても、管理者

伊藤祐重と云ふ人――、其人の命令は何時ても能く優しく聞くのてある、尾に其樣に力がありさうに考へられぬけれども、凡て動物の力は尾に顯はれて居る、百獸の王たる獅子の尾の一撃を受けたら、馬の脊骨は折れて腰が拔けるのてある、犬ても力の乏しき犬は、強き犬に遇へば尾を股の間に垂れて恐縮して逃げるが、強き力を有する犬は、尾を腰の上に直立せしめて進む、馬も其通りて、力があるか否やは尾を振つて見れば直ぐに知る事が出來るのてある。

此所に掲げた獅子のお話はお次ぎに致しませう。

▲お話ですか

◎どんな大きな雷ても、九哩以上離れて聞くことは出來ません。てすからどんなに遠いところて微に鳴ッてゐる雷ても九哩以内に鳴てゐるのてある。

◎蝸牛が一哩の道を歩むには、二週間と五時間かゝるさうてす。てすから、一日一と晩にざッと一町の間しか歩めないのてす。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

荒瀬千子

林浦子

銷夏教訓

下田文學士選

▲第壹等　福岡　濟中けい子

紅塵苦熱素より厭ふべしと雖も、而も夏は年々歳々必ず人界を見舞ふ、既に夏の來るを知りて是に應ずる所以の途を講ぜず、徒に暑し苦しとて匆々として山紫水明の境に遁逃す、思慮なき業ならずや、斯くては實に貴重なる光陰を徒過するのみならず、或意味に於て自ら壽命を短縮するものなり、汗を流して働けるものに對しては、炎暑の威力も遂に零なり、見よ、無爲安逸を貪れるものは些の苦熱に對するも、恰も居所なきかの如く苦悶するに反し、終日直射光線の下に營々として力行する農夫の、却て平然たるものあるにあらずや、勞働は最良の銷夏法たると同時に、是によりて體力を增進し、不撓堅忍の精神を養成し、更に一浴爽然涼を椽端に納れつゝ、靜に一日の事業を回想するの時、例へば甘露の芳醇に醉へらむ如き、言ひ知れぬ快感に打たるゝ所以のもの、豈に勞働の賜物にあらざらむや、函嶺の湖上晩涼を逐ふて船を浮ぶ、快は即ち快なりと雖も、忽ちに飽き易し、砂白く松青き湘濱の風光、美は即ち美なりと雖も、久しきに亘りて心目を樂ますること能はず、獨り甘露の芳醇は滾々として恒久盡きず變ぜず、而も蓬蒿の下蝸廬の裡、隨處に獲得する事を得、何ぞ必ずしも秀麗の山水を須たんや、而して夏は實に此の甘露の芳醇に醉ふべく多數人に向つて啓示せるにあらずや、試に眼を放ちて窓外を見よ、滿目の草樹は奮然として爀熱と健闘せるにあらずや、斯くて彼等は始めて草樹の本務を完ふし得るなり、若し夫れ草木にして此の困難に遭遇せず、暖かき春神の懐より直に優しき龍田姫の腕に渡されたりとせば、果して秋に至つて

大口鯛二氏選　題詠史

天　石田三成　山梨　蘆澤ゆき子

三度までかへてすゝめしこのめよりまつくまれけんさとき心を

▲評　非凡の才甕裡の錐の如し幼時既に其鋭を露せり

地　源頼朝　東京　龜井爲登子

おのかためいさをゝたてしはらからをなにそはあたとにくみたりけん

▲評　猜疑骨肉を殺ぎ三世にして亡びたり嗚呼

人　平重盛　三重　小島駒子

君と親に身をわけかねてちとせをはよそに小松の見しそかなしき

▲評　忠孝兩全なりがたきを歎きて大義親を滅する果斷なかりしは可惜可哀

伏島さき子

甲

和氣清麻呂　弓削川のさかまくなみをしつめてそ天つ日つきを代々に傳へし　山口　末田竹子

元冦　身にかへて君かいのりし神風にあたの舟皆しつみはてけん　京都　渡邊米子

楠正行　あつさ弓かへらぬものとをゝしくもかりのちきりはむすはさりけん　埼玉　森田竹子

櫻井驛　櫻井のさとのあらしに花ちりてのこる若葉の楠をそ思ふ　東京　三宅ひさ子

紀貫之　君によりいよゝひろくなりにけり神代なからの敷島のみち　宮城　金たま子

楠正行　つゆふかきはゝその蔭のなかりせはくさの二葉はかれやはてまし　愛知　市橋幾子

豐太閤　賤か家にうまれしひさこのはひこりてみかたもこゆるくらゐやまかな　東京　長井うた子

乙

楠正成　よろつよになかれぬるかな湊川君につくしし君かいさをは　青森　中津なほ子

楠公夫人　はゝそ葉のめくみの露のかゝらすは若木もあたにかれやはてまし　愛知　木原貞子

平敦盛　若櫻須磨のあらしにちりぬれと今なほ忍ふ花のおもかけ　青森　田島正子

清少納言　ふる雪に御簾まきあけてもろこしの峯より君か名こそたかけれ　群馬　木暮千代子

二宮尊德　親のためおもきたきゝを負ひなからつとめし君かたふとかりける　東京　井上とみ子

讀南朝史　くりかへしゝのふもかしこ笠置山みけしの露のみたれにし世を　北海道　西久子

橘比賣　わたつみに身はしつめても類なきなは代々にたちはなの花　兵庫　中村益子

王仁　萬代に匂ひぬる花かなとなにはの津にさくやこの花　神戸　宇野顯子

丙

楠正行　かへらしと君につくしゝま心は萬代匂ふ花と咲きけり　青森　田島愛子

兒島高德　ま心を咲きし櫻にかきそへてその名をのこす大和武士　青森　鈴木安子

陸奥采女　安積山遠きむかしのしのはれていとも尊き島の道　岡山　横川朋子

兒島高德　まこゝろは船坂山の櫻木に花のほまれを今もあふかむ　靜岡　青木絹子

讀南朝史　心なき鹿も哀れや增りけむ吉野の宮の秋を思ひて　青森　吉田やす子

中禪寺にて

岩野泡鳴

黒くよどめる
水のおも、
油を延べし
海の如。
ひたりくと
艪になづむ、
音さへ重き

新體詩

▲月の訓　埼玉　森田竹子

希望の光消え果て
世にかひのなき玉の緒の
絶えよとばかりよゝと泣く
下界の人を照し見て
『花に嵐はあるものを
清く澄む身の吾さへに
雲の障はあるものを
など人の世に憂き事の
なからざらめやさりながら
散りにし花も梢だに
枯れずありなば又咲かむ
村雨おほふ吾面も
亦照り渡る時もあり
さはな歎きぞ人の子よ
一度のぞみたえぬとも
志だに固からば
エデンの園に遊ばんも
さのみ難くはなからまし
樂しき眼もて世をば見よ』
斯くしも月は訓しけり
み空に冴ゆる面影の
いよゝ益々麗はしく

田島渡

第卅五回作歌募集
題　月夜訪友
選者　大口鯛二氏
規定　一人一首綸葉書に認める事
優等作は九月二十日發行本紙上にて披露すべし

第廿八回短文募集
題　秋の夜
選者　編輯局同人
規定　百八十字以下用紙葉書
優等作は九月二十日發行の本紙上にて披露すべし

第十六回俳句募集
題　菊花
選者　編輯局同人
規定　一人一句綸葉書に認める事
優等作は九月二十日發行の本紙上にて披露すべし

第九回新體詩募集
題　隨意
選者　編輯局同人
規定　成るべく短きもの用紙葉書
優等作は九月二十日發行の本紙上にて披露すべし

締切九月五日限り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

花輪余志野

穰々たる黄金の美果を收め得べきか、人情自然に感ず、櫻雲滿山を罩めて朝暾華かに匂ふ芳山の春曉に對しては、實に唐國人も高麗人も、大和心になりぬべし、西風襟に冷かに、蘆荻寂しく噪ぐ秋江の滸を徘徊するの時、無心に飛び出る鴫を眺ては、西行ならぬも誰か秋の哀を感ぜざるべき、然り而して獨り貴き夏の啓示を賛美するもの、尠きは、抑々何が故ぞや、蓋し勞働の裡、眞に尊き快樂の存するを知らず、春神の懐より直に龍田姫の腕に渡されん事を希望せるなり、斯くて年々歳々、歳々年々、同一軌を履んで改むる事なくんば、遂に人生の四分の一を無意義の裡に徒消し去らむ、惜むべき事ならずや。

▲第貳等　山形　阿部さゐ子

夏は、吾等に如何なる敎訓をか齎らせる。泥中より露濁りにしまぬ清き白蓮を咲き出させては、高潔節操の心を養へとすゝめ、螢を露しげき草むらに散らしては、常に心に光明を抱き、人の榮華を羨み他を貶す勿れと戒め、蚊に針を與へては怠惰を責む、夏の自然の吾等に與ふる敎訓亦た大ならずや。

▲第參等　群馬　伏島たき子

私方にては夏蠶の最中とて、朝から晩までそれは忙しくて、少しも、憩む事は出來ません、併し、それが爲か夏瘠もせず、御飯もおいしくいたゞけます、思へばいつと遊んで居てよい時は御座いませんが、夏はことさら働けるだけ働いた方が、身體のため、工合がよろしいやうに思はれます、あの緑すゞしき木ずゑにぢー〳〵と啼きしきる蟬の聲も、そよ〳〵と吹き渡る風のさゝやきも、私の耳には働けよ〳〵とのやうにひゞきます。

小督　琴の音を松吹風にかよはせて雲井をしのふ嵯峨のやまさと　千葉　三橋野子

神功皇后　島國のかみのひかりをたらし姫からくにまてもたらはしにけり　愛知　服部千鶴子

古事記　千早振神代のこともあきらかに史の上にて知るそうれしき　大阪　富永才子

大日本史　たくひなきやまとしまれの櫻花書の上にもにほふめてたさ　滋賀　平松いと子

日本書記　神代より來經ゆく代々のふることをうつし出てたるふみそたふとき　京都　磯谷澪子

天照皇太神　あまてらす我大神のみ光にひらけそめけり大和しま根は　山形　阿部さゐ子

日露戰役　千早振神代もきかぬ大みいつかゝやかしけりますら武夫ら　京都　難波良久子

和氣清麻呂　あまつ日をおほひしゆけのくもりをはきよくもかせそふきはらひける　東京　四屋やす子

廣瀨中佐　軍神とたゝへられつゝよろつよに朽せさらまし君かいさをは　京都　清水いま子

神皇正統記　敷島のやまとこゝろをくみわけてきよくうつしゝみつくきのあと　靜岡　清水初子

北條時宗　史の上にひかりとゝめてものゝふのたかきいさをは千代にかゝやく　三重　諸戸常子

楠公父子　敷島のやまとこゝろの色見えてちろものころも櫻井の里　山口　末田貞節子

楠正行　櫻井の敎まもりて花よりもかくはしき名を世に殘しけり　靑森　佐藤楓子

楠正成　老せぬもことわりなれや菊の水なかれて代々にかくはしき名の　岡山　武田須磨子

袈裟御前　女らのかゝみとなりて袈裟の御名立てしみさをはよろつ世までも　兵庫　下岡松枝

西郷南洲　御言葉と共にあふかむ千代までもくもの上野の君かみすかた　愛知　石川顯子

平重盛　涙かせをあたにたてしとつくしかたかちとる君を思ひこそやれ　東京　瓜生保子

兼好法師　まことしき文の道にていにしへの稀なる人の世にしられける　岡山　貝原わき子

後醍醐天皇　笠置山出ましゝ君のさして行くあまやともなき御世もありけむ　長崎　葛原梅香

楠正成　櫻井の水のあふれてみなと川なかれの末に名をとゝめけり　靜岡　萩原さだ子

楠正行　悲しさに文はおほへとこゝろからさりも兼つる櫻井の里　岡山　寺松はる子

わがこゝろ。
遠く君より
離れ來て、
暮て行くけふの
寂しさよ。
舟の行くゑに
引かれては、
わが身も消えて
行くおもひ。

佳調

紀貫之　群馬　伏島たき子
みよことにいや榮えゆくことの葉の花のねさしは君そさためし

○紫式部　北海道　瀧澤初子
言の葉のしげき中にもうへなきはこのむらさきの色にそありける

○清少納言　東京　吉岡かめ子
みそなはすをすのと山の雪よりも高きや君かこゝろなりけむ

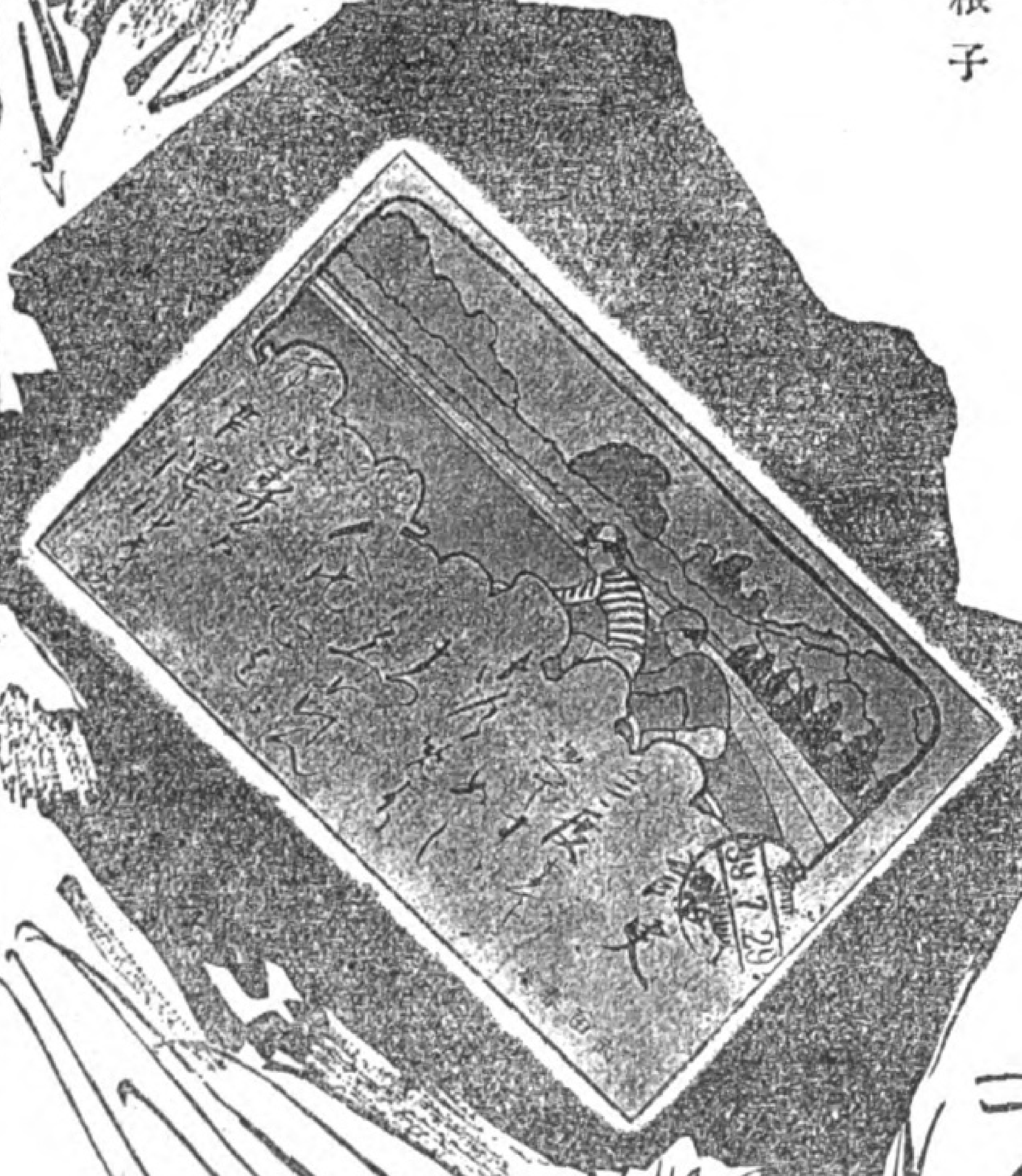
○紫式部　東京　土師利根子
紫の色をこめにし言の葉の花やいつまて世に匂ふらむ

○袈裟御前　岡山　江田道子
身一つを夫と母とにかへしこそ世にたくひなきみさをなりけれ

○紫式部　東京　長鹽錠子
言の葉の花はかりかは吳竹のみさをのいろそたくひまれなる

○王政復古　東京　赤澤英子
時めきし葵もゝろく月と日の御旗の風になひきふしけん

瓜生保子



天　青森　田島正子
虫賣の虫聞て居る廣野哉

地　三重　莊司種子
塵塚やひろひあけたき虫の聲

人　福島　中村ます子
三日月や虫の聲まで未だ少さき

聞分くる人靜かなり虫合せ　京都　磯谷澪子
草の庵虫のうた乞ふ人の來し　東京　西川縫子
秋はこゝこゝよと野邊に虫の聲　群馬　伏島たき子
月すみて虫の音しげし八重葎　山形　阿部さゐ子
草野千里虫のなく音や秋の宵　埼玉　森田竹子
月影を鳴きあかしけり虫の聲　東京　長井いれ子
密談に更け行く夜半や虫の聲　東京　赤澤英子
秋の夜を鳴きからしたり虫の聲　東京　三宅久子
千々になく虫を友なり竹の庵　東京　大澤幸子
虫鳴や夜業いそしむ窓の下　愛知　市橋幾子
虫賣の世帶も細き烟りかな　東京　彦坂たき子
はた織るも鈴ふるもあり虫の聲　京都　渡邊米子
客去て月影に聞く虫の聲　京都　入田艶子
虫籠や丸くけや紐の緋縮緬　岡山　赤木孁美子
飼ふた氣で聞くや庵の虫の聲　福島　齋藤千代子
暮近く手向の祈や虫の鳴く　東京　加藤清子
旅寢して樂しく聞くや虫の聲　靜岡　萩原さだ子
虫なくや夕月にほふ奥の院　東京　川村誠子
細道のふみ處になしや虫の聲　三重　南部種子
凉しきの身にしむ頃や虫の聲　京都　清水たま子
美しき籠の中なり虫の聲　熊本　齋藤さき子
灯火にはつたり止みぬ虫の聲　宮城　金いま子
心なき足音は誰れ虫の聲　靑森　佐藤楓子
虫鳴くや戰士の境此處かしこ　東京　森川ゑい子
夜祭や鳥居ぬければ虫の聲　秋田　西村智賀子
虫の音や淋しさ添ふる夜半の床　京都　難波らく子
利根川に月は澄けり虫の聲　三重　山田せい子
筋けづる嵯峨の蠶屋つ虫の聲　岡山　江田道子
虫鳴や古鄕の父母のしのはしき　東京　木村駒子
賤か家につゝれさせとや虫の聲　兵庫　宇野鄰子
亡き妹を思ひ出てとや虫の聲　長野　植原千代子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

暑中進物調進
東京日本橋區通二丁目九番地東仲通
あわび粕漬
魚類各種粕漬
暑中保証
柾木屋支店

ホワイト裁縫　ミシン使用法　第貳回夏期講習會

一購師　横濱女子實修學校々長齋藤春代先生
一會場　東京麴町區富士見町一丁目廿五ホワイトミシン裁縫研究會内
一會期　八月十七日より仝月三十一日迄十五日間
一時間　甲科は午前八時より十時迄、乙科は十時より正午迄(但し講習の都合にて時間を延ぶることあるべし)
一ミシン　開會中會員一名に對しミシン一臺を貸與すること
一材料　講習に要する材料は會員の自辨とす
一甲科會員　五拾名(定員に滿つるときは謝絶すべし)
一乙科會員　五拾名(會員の資格はホワイトミシン裁縫研究會又は第壹回夏期講習會終業者に限る)
一會費　甲科金貳圓、乙科金貳圓五拾錢前納の事
一申込期限　來八月十日迄に前記ホワイトミシン裁縫研究會宛申込まるべし

明治三十九年八月

●壹圓の舶來石鹸よりもクラブ洗粉は衞生美身術に適合す
●千種以上ある洗粉の中にもクラブ洗粉のみは石鹸に優れる特點あり

總代理店　總輸出入雑貨 化粧品問屋　中山太陽堂 本店 支店
●内外各地の信用ある小間物店化粧品店及呉服店にて販賣せられつゝ有之候間御便宜御用命相成度候

各新聞の論說

此一欄に採取する處を一覽すれば社會の新らしき思潮を知る事を得可し

時事新報

△露國に後るゝ勿れ(憲政の發達に後るゝ勿れと論ぜり)
△大隈伯にも及ぶ可し(行賞は野に在る巨人にも及ぶ可しと論ぜり)
△學生の意氣(官立學校學生の意氣銷沈せるを笑ふ)
△官吏の增俸(定員を減じて增俸せしむ可し)

東京每日新聞

△アラスカ漁民の遭害(我國民不感情を起す勿れ)
△歐米域外の立憲政治(波斯に於ける立憲政治)
△時代と敎育(自立的平民的傾向)

日本

△政治家の意義(信義薄き我政治家を責む)
△戰艦三隻の新加(三笠浮上香取鹿島回航)
△滿洲鐵道會社(政府命令に對する評論)
△體育上の誤解(同一運動を萬人に强ゆる誤解)

國民新聞

△義務敎育年限延長(六箇月となすを適當とす)
△敎員養成の急務(敎育の進步は敎員を養ふにありと論斷せり)
△立憲政治と貴族院(貴族院の必要論)

東京朝日新聞

△多額議員問題(約束して互に交替するの弊害論)
△對博覽會方針(四十五年の大博覽會の設備)
△行政區併合整理(町村の廢合處分問題)

讀賣新聞

△危い哉水力電氣(新事業に對する危險)
△鐵道當事者の怠慢(甲武及作業局の不忠實)
△伊藤侯の對韓策(形式主義貴族主義の弊)
△實業學校增設の方針(農業を顧みざる弊害)

報知新聞

△印度貿易を擴張すべし(我製作品の輸出先き)
△電車の値上に就て(敢て反對せず十分なる設備を要求せり)
△政界の現狀及趨勢(政界の暗流を指さす)
△學生風紀問題(家庭的趣味を與へよ)

萬朝報

△市民狙擊の下手人(極力電車値上問題に反對す)
△婦人の誤解(泰西熱に浮さるゝ勿れ)
△中學敎育(敎師を得る事が肝要なり)
△偏頗なる勿れ(滿洲の開放問題)

東京二六新報

△列國共同(滿洲開放と共同の利益)
△獨乙と支那(兩國の接近に對する評論)
△馬賊討伐の利害(其感化を計るべし)

座椅子　特許第九〇一〇號

此座椅子ハ日本風及ヒ韓國風ノ室内ニ於テ用ウル爲メニ製シタルモノニシテ發明ノ目的ハ構造ヨリ起ル自然ノ彈性ニヨリ身體ヲ安全ニシテ愉快ノ休息ヲ與ヘ且坐臥共ニ便ナルノミナラズ疊込携帶ニ便ナラシムルニ在リ故ニ老人産婦及胸腹部脚部足部等ノ慰安ヲ要スル病人幷ニ長時間讀書ヲ爲ス人ニハ必要缺ク可カラザルモノナリ

價格　金參圓八拾錢　東京市内配達無料
蒲團付　金五圓以上　東京市外配達荷造實費

發賣所　東京市芝區下高輪町廿一番地　武田樂民堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

謹告

弊紙は毎號、其の掲げたる記事につき、讀者諸姉が
一 善き教訓なりと感じた記事
一 利益を得たと感じた記事
一 善く書き善く詠まれたりと感じたる短文、和歌、俳句、新體詩
等を承はり、編輯上の參考として掲げ度し、御通知はハガキにて結構
本號に對する締切日 八月三十日

第百九號に對して

▲善き教訓なりと感じた記事
精神の修養(社說) 山形 阿部さゐ子
同 京都 白百合生
夏(社說) 群馬 伏島たき子

▲利益を得たと感じた記事
歐米婦人と日本婦人(高木醫學博士) 石川 眞田綾子
海水浴に就て(永左近) 與野 丸茂りきの
英國人の氣風(內田文學博士) 山形 阿部さゐ子

▲善く書き善く詠まれたりと感じたる
短文(花輪余志野)和歌(西久子)俳句(中津なほ子)新體詩(清水いま子) 山形 阿部さゐ子
短文(水野淑子) 熊本 齋藤たまき

外國雜報

◉獨逸の野心 埃及に於ける英國の勢力に反對する獨逸人の運動猶熄まず獨逸は埃及に於ける英國の地位を承認する代りに之に對する報償を得んことを希望し且つバグダッド鐵道の一部分と波斯灣の管理權を強求す(八月十五日朝日着電)

◉埃及分割論 獨逸新聞は挑戰的論鋒を以て埃及に於ける英國の施政を攻擊し埃及に對しては英獨均等の利益を目的として之に臨み且つ埃及の將來は報償價格を基礎として英獨兩國の間に協定されざる可らずと提唱せり(八月十四日朝日着電)

◉露國首相更迭說 官僚派の生粹なるヴアシリチコフ公はストリピン氏に代つて首相たるべしとの風說あり(同上)

◉日露交涉問題 露公使駐韓問題は我政府の要求通り決着したれども露韓兩國間の條約問題に付ては日露兩國間に特別の談判を要することゝして尚ほ未定なり即ち露國は舊露韓條約の有効なることを主張し日本政府は其無効なることを主張せるものなり故に韓國に關する日露交涉は根本的解決を得たるものにあらず(八月十二日時事着電)

◉露帝と謀反兵 皇后、皇太后其他皇族及び帝國參議院議員の反對あるにも拘はらず露國皇帝は親ら不滿を抱ける軍隊を檢閲せられんとする旨を宣言せり皇后は皇帝に說きて斯る危險なることを思ひ止まらしめんとせしも皇帝は之を肯ぜず飽くまで軍隊を檢閲し終りて彼等に勅語を賜らん事を主張して止まず(十五日時事着電)

◉日本漁夫の闘爭 信ずべき筋に達したる報道によれば去る七月十六日及び十七日の兩日日本帆船の乘組員ベリピロフ島の膃肭獸禁獵區域內に入り獵獲中監守者の爲めに發見せられ右監守者と日本人との闘爭の結果日本人五名死し十二名捕はれたる赴右に就ては政府に於ても篤と事實調査を爲す筈なるが要するに外交上重大なる紛紜を來すが如き事は萬々無かるべしと云ふ因にプリビロフ島は露領コンマンダースキーの東北に在る米領にして前記監守者は無論米人なり

◉漁夫爭闘事件と米國 アッチエ島に於ける日本漁夫被害事件に關し外電は如何にも重大なる國際問題にて惹起さんとするが如くに報道するも聞く所に依れば右に關し米國大使ライト氏は九日特に我當局者を訪問し米國政府は該事件に關しては飽くまで愼重丁寧に其眞相を調査報告すべければ此際斯る一些事の爲めに日本國民が數十年來深厚の關係ある米國の好意を誤解することなからんことを熱望する旨懇話したりと云ふ

內國雜報

◉軍人遺族子女慰安旅行 時事新報社は數回慈善旅行を企て成功し昨年は戰時中にて休み今回左の主旨を發表して遺族子女の慰安旅行を企てたり

平和克復して凱旋者の光榮此上もなく風霜枕戈の苦も月下擣衣の情も顧れば唯だ一夢の如く曩昔の至苦は今日の至樂と變りたるに引換へ同じく生死の境に出入して同じく奇勳大功を奏しながら圖らずも戰病死の不幸に遭へる人々の遺族は既に其筋にて夫れぞれ扶助慰安の道を講じたるべきも猶ほ征途の朝を偲び終焉の夕を偲みては追悼顧望の情轉た切なるものあるべく中にも怙恃を失ひて零落沈淪の悲境に彷ひ其子女の如き其日の生計に奔走して寒暑ともに一層の苦を嘗めつゝあるも多かるべし心情の苦體軀の勞と竝び到り而かも是れ其父兄が國家の爲めに外敵と闘ひ身を擲げて忠勳を勵みたる結果なるを思はゞ其實狀は我が同胞の最も同情に堪へざる所ならん依て本社は本月下旬若くは來月上旬を以て軍人遺族子女慰安旅行なるものを催し軍人遺族の子女を山間若くは海邊の風清く景新たなる處に誘ひ嬉戯遊娛の裡に皮膚の塵垢を洗ひ心目の汚穢を淨め聊か平生の憂苦を忘れて暫しなりとも健全なる慰安を得せしめんとし子女の選擇及び監督の一切をば嘗て本社の開きし慈善旅行を監督し既に屢々經驗を積める慈善同志會長小崎千代子女史并に鍛鍊會長白山祿致氏に囑りたるに小崎氏は女子部、白山氏は男子部を監督することを快諾し既に之が準備に着手したり旅行地及び期日其他は決定次第再び詳記すべし

◉滿洲鐵道命令 時事新報社 戰後經營後第一着手として帝國の經營すべき南滿洲鐵道會社創立に對し政府は命令書を下したり其要領によれば第一條には大連長春間并に奉天安東縣間の幹線鐵道を始め各支線を經營する事第二條に前記の鐵道は三年以內に四呎八吋半の軌道に改築すべき事(世界共有の軌道)第三條に沿道主要の停車場に旅客の宿舍倉庫及び港灣に設する地點に水陸運輸の連絡に必要なる設備を爲す可しとなし第四條に附帶事業として撫順煙臺の炭鑛採掘を始めとし電氣鐵道貨物の委托販賣倉庫及び鐵道附屬地に於ける土地家屋の經營々業等を列記せり(此附帶事業により鐵道の損得に關係を及す者なり)尚其用地內の土木教育衛生に關し設備すべしと命じ第六條に於て前條の經費を支辨する爲に前記地內の居住民より手數料を徵收する事を得と規定したり(露國より引續を受たる租借地內の居住民は記者の實見によるも非常に多數にて其區域內の土木衛生に要する費又少からざるべし)第七條に於て會社の資本總額を二億圓と定め其內一億圓は政府出資としたり(政府の一億圓出資は安價に見積られるものと見ゆ如何となれば撫順炭坑其他既成の鐵道及び之に附屬せる一切の建物財產を加へたればなり)第十條に株式は日淸兩國人より募集すとあり(淸國人の出資左迄恐るゝに及ばず)第十一條に利子補給の規定として若し會社の配當六分の割合に達せざりし時は其割合迄補給すとなせり(特典を與へたり)其他詳細規定せられ總裁には後藤新平氏任命せらるべしと專ら噂さあり

◉援護金の配分 帝國軍人援護會より提供したる援護殘金五分利付海軍公債額面百二十八萬千圓は內務省にて左の如く割充つることとなり過日夫々通牒を發したり同時に其保管并に使用方に付訓令を與へたるが主として生業扶助を目的とし利殖の方法を採るべき方針なるを以て萬一現金の支出を要する時は狀を具して內務大臣の許可を經べき都合なり、府縣に依り非常の差額あるは援護會當時に於て補助を與へたる府縣の割當額を削減したると遺族の扶助を要するもの、多寡とに依るものなりと云ふ

府縣	割當額
北海道	一八、六〇〇
東京	三〇、五〇〇
京都	一五、九五〇
大阪	一四、七五〇
神奈川	一二、六〇〇
兵庫	四四、六〇〇
長崎	一二、八〇〇
新潟	五六、一〇〇
埼玉	三一、九五〇
群馬	二六、四〇〇
千葉	三五、八五〇
茨城	三五、九〇〇
栃木	三〇、八〇〇
奈良	八、一五〇
三重	四三、〇〇〇
愛知	五一、八〇〇
靜岡	三一、六〇〇
山梨	一八、六〇〇
滋賀	二二、〇〇〇
岐阜	五三、五五〇
長野	三五、一〇〇
宮城	二二、二〇〇
福島	三四、二〇〇
岩手	一四、四〇〇

府縣	割當額
青森	一六、七〇〇
山形	三一、五〇〇
秋田	二八、三〇〇
福井	二九、五〇〇
石川	三五、八〇〇
富山	四四、一五〇
鳥取	一〇、〇〇〇
島根	一六、四〇〇
岡山	二六、〇〇〇
廣島	三六、〇〇〇
山口	二六、四〇〇
和歌山	一〇、〇〇〇
德島	二九、五〇〇
香川	二四、一〇〇
愛媛	三九、一〇〇
高知	三二、〇〇〇
福岡	三〇、三五五
大分	一三、七〇〇
佐賀	一六、〇〇〇
熊本	二五、〇〇〇
宮崎	一七、八〇〇
鹿兒島	三六、二〇〇
沖縄	五、一〇〇
合計	一、二八一、〇〇〇

◉癈兵院設立の場所 東京に設置さるべき癈兵院は遠からず其の地をトして新築すべき筈なるも差當り豫備病院澁谷分院を借受くることに決定し兩三日中に內部の改築工事に着手する筈なり該院の設備に關しては十分なる注意を要する中にも慰藉の方法と水火天變の災厄を豫防することと最も肝要なるが故に近接せる不用の建物を取拂ひ炊事場の如きも成るべく遠ざけ娛樂室は在來の分院附屬のものを用ゐる計畫にて雨天の際は講談落語等を聽かしめ出來得る限り慰藉を與ふる設備をなすと云ふ

◉電車問題 內務大臣が電車に對し突然賃銀値上を許可せし件につき世論喧しく而して內務省の辨明になれば左表を基根として値上を斷行したりと云ふ

▲三電車合併後の收支計算(內務省調査)

資本金 二千七百萬圓
線路延長 百十二哩
乘客總數 一日四十五萬二千人 會社の計算に依る
合併後共通の爲計算上減少すべき乘客數 一日二萬二千六百人 (乘客總數に對し共通乘客を一割と假定し其半數)
減少すべき短距離乘客數と三線共通の爲增加すべき乘客數とを相殺し減少すべき乘客人員 一日二萬二千六百人 (乘客總數に對し五分減少するものとして)
差引合併後の乘客總數 一日四十萬六千八百人
內 通常乘客 一日卅八萬二千九百七十九人
　 割引乘客 一日二萬二千八百廿一人
但此割引乘客數は卅八年下半期及び卅九年上半期の統計に依り割引乘客總數に對する百分の五、六一として算出す
收入 通常乘客賃 一日一萬五千三百五十九圓(一人に付四錢)
　 割引乘客賃 一日四百五十六圓(一人に付二錢)
計 一日一萬五千八百十五圓
支出 一日七千八百四十圓 會社の計算に依る
差引利益 一日七千九百七十五圓
年計 二百九十一萬八百七十五圓
內
一、積立金 廿九萬千八十八圓
二、資本に對し七朱の配當 百八十九萬圓
三、納付金 廿四萬二千三百六十二圓
四、再配當(一朱五厘) 四十萬五千圓
五、繰越其他 八萬千九百廿五圓
即ち配當合計八朱五厘

◉婦人と專賣特許 婦人にして專賣特許を受くる人尠しとの事は先頃の本紙にも記載せしが本紙第十頁の廣告にある自由椅子は實に婦人の發明せし處にして本會の顧問たる岡部子爵の舊領地の人にて一森彥楠氏の夫人が其養母の看護上工風發明したるものにて病人の座臥自由安樂を得せしめんとの熱心よりして種々工風を練りたる末遂に特許を得たるものと云ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最上醬油

キハク印

於聖路易博覽會　名譽大賞牌受領

キハク印

醬油の味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判ですどーか其あぢのよくてそして經濟であると云ふことを御ためし願ます

千葉縣野田町
釀造元　茂木七郎右衛門　電信略號（キハク）又（ハク）

東京支店　日本橋區小網町三丁目　中野長兵衛　電話浪花五七七番

洋織物　裁縫物
毛布　敷物類
何なりとあり有まいと御思召品も御尋下さい

○産婆生徒　來九月ヨリ試驗ノ上入學ヲ許ス志願者ハ本月廿八日迄ニ出願スベシ規則書望ミノ者ハ郵券四錢送付アレ
三十九年八月
東京慈惠醫院

鹿齒磨は煉と粉の二種あり本品の特色は齒牙の保全と口中の爽快

東京馬喰町　花王石鹸本舗　長瀨富郎　電話浪花三番

容姿改良特專新報に揭載せられ隆鼻器の應用歐米に盛也

專賣特許　隆鼻器

鼻の高くなる器械

鼻の低き人は試給へ速に高くなり自然に其形狀を好くす奇効卓絕禮狀夥し特一圓九十錢並一圓四十錢送料十一錢

說明書郵稅二錢　東京日本橋十軒店土產商會　振替貯金口座第壹貳九參番

とらお赤毛の人に告ぐ

二瓶一組小五拾錢○同大壹圓○送料拾錢

該液劑は獨逸國博士の發明に弊店多年の試驗劑を加味せし新藥にして僅か十分間にて染上り黑き光澤を發し美麗なるは烏羽の如し而して永久禿げる事なし其理由は毛髮中に硫黃質を含めるものにて此の硫黃質と液劑と毛中にて化合酸化硫黃となりて黑色を表出するものなれば禿る疑なきは明白なる事實にて皮膚に無害なるは弊店保證致ます

毛染所　東京橋本材木町三ノ四　岡田藥店

世界のしんぶん

◉長壽村　英國セルボルン市の近傍なるソルンコムベといふ村にて人民の百分の四―即ち十五人は九十歳に達せり、最年長者はハントといふ人にて本年九十二歳なり此人の四代の孫は同村に住せりといふ

◉四時間睡眠會　といふもの近頃米國に設立せられたるが會員は必ず四時間以上睡眠せざる規定に從ふ人々なりといふ

◉穀物の燃料　近頃英國汽船カウスドン號は日本への航行中太平洋の中途にて石炭の欠乏を感じたる時船長は五千袋の穀物を燃料とすべき事を命じ辛ふして近くの湊に着する事を得たりといふ

◉奇なる結婚　巴里に於て行はれたり、そは双子の男子双子の女子と結婚せるなり、男の介添も又双子なりし故世の人の好奇心を惹き起せし事非常なりしといふ

◉最好の漁法　といふは此程獨逸の發明家によりて試みられたり其法集聲器（微かなる音を高く明かにして聽よくする器械）を水の入らぬ樣にしたる金箱の内に納めたるものを海中に投入して魚の近傍に來れる音を聞くなり、海中の集聲器にて高くしたる音響は金屬線にて水面に傳へられて陸上たり海底の樣子を知る事を得るなりノルスシーといふ海にては此法によりて鯡漁を試みしに非常の好結果を得たりといふ

◉常雨帶　南洋ニユージーランド島の南にシスタース島といふあり此島にては年中絕へず降雨するによりて有名なり之れと同樣にチエラ、デル、フエーゴといふ處にては雨は降られど年中霰又は霙の降る事絕へずといふ、世界の或る地帶は降雨止む時なき故常雨帶と名けらるゝといふ

◉氷大陸とも稱すべきは北極グリーンランドなり、此地は有史以前より殆んど全體氷にて埋められたる地方なり氷の面積は約六十万四方哩にして其の厚さ我が十四町乃至二十一町あり、統計學者の說によるに此の一大氷塊を歐洲の地中海と比較するに同海の水を全く涸らしたるものよりも大にして、英國全體を此氷にて被ふ時は厚さ九十八町となる、又北米合衆國を被ふとすれば三町の厚さとなるといふ

◉米國富豪の寄附　は其額頗る大なり昨年末にて最も多く寄附したるはロツクフエラーにして二千三百万圓を寄附しカーネギーは七百貳拾萬圓を寄附せしを初めとして其他の十九人より貳百萬圓の寄附あり、合計高貳億万圓に上りしといふ

◉ダイヤモンドの破裂　する事は頗る奇なる事なれど知る人少し、ダイヤモンドが坑場より取り出されたる時に破裂するは珍らしき事にあらず時には人の懷中又は溫かなる手の內にて破裂する事ありこは急に溫度の違ひたる爲なり、寶石の形大なれば夫丈破裂し易し、寶石商は此害を防がんとして南アメリカより本國に發送の節に生の芋の中に入れて送るといふ

◉破船の數　昨年中五百噸以上の船の全く沈沒せしもの大抵二百九十四艘あり此內九十艘は英國のものなりしといふ

◉銀二百五十万圓　アメリカの汽船ニユーヨーク號の持ち來りたる銀塊は最多額のものにし重さ一万八千九百貫ありしといふ其荷物は銀棒九百七十二本にして三百六十三の箱に納めありしといふ

北米合衆國紐育市　**シンガー裁縫機械會社**

東京支店　東京銀座三丁目拾貳番地
大阪支店　大阪心齋橋筋二丁目五拾六番地
長崎支店　長崎大工町六番地
東京支店名古屋監督店　名古屋玉屋町九十六番

洋服、足袋、シヤツ靴商等に非常の信用を博したるシンガーミシンは今や家庭の第一要具として全國の婦人に歡迎せられつゝあり而して我社は前記四店の外に全國の都市に六十有餘の出張所を有し又ミシン專門の裁縫を教授の爲に東京、大阪、橫濱等の各市にシンガーミシン裁縫女學院を設立し東京の如きは生徒數增加して今や三階造りの一大校舍を新築中なり、一たび我社の學校を參觀せらるゝの婦人は如何にシンガーミシンの家庭に必要なるかを知らるゝならむ、定價表目錄等御申込次第進呈す

ミシン裁縫專門教授
（規則書進呈、郵券封入御申込アレ）

東京麴町區有樂町三丁目壹番地　シンガーミシン裁縫女學校
大阪東區北濱二丁目六番地　シンガーミシン裁縫女學校

報知新聞記者　中村木公君編　▲八月最新刊▼

實地精査　**女子遊學便覽**　全壹冊　正價參拾錢　郵稅四錢（郵券代用壹割增）

萬朝報（八月十三日）評　坊間幾多の遊學案內が、麗々しく改版と稱し訂正增補と號しながら、數年前の舊規則を揭げたるものに比すれば、調査善く行屆けり、尙ほ職業案內及學費の概算をも加へ、殊に無鐵砲に東京遊學を鼓吹せずして東京遊學の危險なるを說き、嘗て都下の新聞に連載せられたる、女學生誘惑の手段等をも書き添へたれば、上京に念ある女學生と其父兄とには頗る便なるべし

發兌　東京京橋區六銀町十二　振替口座壹七貳九番　**女子文壇社**

特約賣捌　東京堂　北隆館　文榮閣　東海堂　良明堂　各店

ムスク香水
（大瓶壹圓●中瓶六拾五錢●小瓶二十五錢）
○本品は芳香の永く保つ點に於て頗る高評なり

東京日本橋區本石町四丁目　ホーサン石鹸本舗
本舖　松澤常吉（電話本局百四拾五番）

◎**海陸運送**　**貨物運送取扱**

一各地行汽車汽船積　一日本郵船株式會社積
一大阪商船株式會社積　一臺灣清韓歐米各國行
一各位御轉任等の際は電話又ははがきにて御下命被下候はゞ熟練且確實なる荷造人差向け叮嚀迅速に御取扱可仕候
一學生諸君の御榮轉の際は特別に御取扱可仕弊社の內規に御座候
日本銀行文書局御用、各公私立學校御用、各種團體御用
一市內小荷物集配　副業として市內小荷物集配開始致居候に付御用の節は市內到る處の雜貨店小間物店煙草店等の店頭に市內小荷物配達三共取次所の看板あり右へ御出荷被下候はゞ迅速且運賃低廉御便利に御取扱可申候

（電話本局八九四番）　（共）**三共社**

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

再版成る ◉第八號 八月三日刊 忽賣切再版

婦人世界

◎婦人日常生活法（實用的大文字）村井弦齋

◎婦人と寫眞 石塚月亭

▲天氣は何時が宜きか▲姿は如何にすれば宜きか▲衣服の色合は何が宜きか▲髪は如何にすべきか▲顔の向は如何にすべきか▲手の置き場所は如何にすべきか▲目の着け所は何處が宜きか

◉小兒汗もの豫防及治療法 ドクトル 加藤照麿

◎海水浴と溫泉（何れが宜きか） 醫學士 伊庭

◉妊婦夏季心得 產婆 西尾

◉價十五錢郵稅一錢五厘 半年郵稅共九十錢

東京京橋南紺屋町 電話新八七四 實業之日本社

本香油は品質の善良、香氣の優雅なる、世上幾多の香油の比にあらず、交際社會に活躍する紳士貴夫人令孃は一日も缺く可からざる逸品なり

定價 大壜四十五錢 中壜貳十錢 小壜十二錢

製造本舖 東京上野廣小路 山崎屋油店 電話下谷一七三五

販賣店ハ各化粧店にあり

壜詰 最上清酒

大日本優等清酒 世界長

御進物用は美麗箱入

世界長は内務省衛生試驗所に於て、試驗を經たる最良清酒なり

世界長は器械口瓶詰なれば體裁最も美麗にして用量を定めて飮用するの便宜あり尚殺菌しあれば夏季腐敗の憂ひ毫もなし

壜詰 一升入 四合入 貳合入 一合入の四種

發賣元 東京日本橋區堀江町四丁目（通稱てりふり町通り） 高橋商店 電話浪花一五六一番

小町印 學生袴

帝都唯一受賞袴 小町印學生袴

御卸部 日本橋區堀留町 永井本店（電話浪花一八四一番）

小賣部 神田區南神保町 永井支店

御料御園白粉

畏き邊りの御料に召させ給ふ

完全無鉛 高貴御化粧料 御料御園白粉（みそのおしろい）

◎ねり製 御園の雪

◎水製 御園の月

◎粉製 御園の花

◎クリーム 御園のつぼみ

◎化粧水 御園の露

◎打白粉 御園なでしこ

◎濃厚化粧水 四季の花

製造元 東京芝 胡蝶園

發賣元 東京市日本橋區橘町四丁目 特約電話浪花四四八番 丸見屋

◎新刊書紹介

（此評を乞はんとする書は本發行所編輯局批評掛宛の事）

母のための教育學

羽田貞義 小澤錦十郎 共著

明治卅九年七月、目黑書店の發行にて代價五十錢、著者は教育界に經驗ある人とて、現時の好著述なり、先づ第一に教育なるものゝ意を明かにし、次に胎教より始めて小學校以前の家庭教育を論じ、續いて小學校時代より其卒業以后に說及ぼし、卷末餘論に三育の方法を詳細說明せられたり

實用問答 養生編

衛生新報社編纂

本年七月、該社の發行にて、代價四十錢本書は其記述通俗に問答體にて頗る簡易、又卷末附錄の鑛泉案内の如き、病者避暑客には必要缺くべからず、第一章に一般の强壯法を論じ、續て身體各部の衛生法を詳細に其構造より始めて他部との關係を說明し、而て其養生法を說けり、又附錄療養地案内の如き、何病には何處と記述しあれば、普通名勝案內の比に非ず

女學校用 國語中辭林

石田道三郎編

本年七月、郁文社發行にて、代價一圓廿錢 例言に「全國の各女學校の國語科の教授書中より解釋を要すべき語句と歌文と固有名詞とを摘出し之を五十音順により辭書の體裁に排列し平易に簡明なる解釋を加へたり」と以て其大體を知るべし、初めに文字とかなの表を示し、卷末に言葉と文字と題して言葉を知つて文字を知らざる時に便する樣、言葉を五十音順に辭書體に排列しありて、至極便利なる好參考書なるべし

二宮翁と諸家

留岡幸助編

本年七月、人道社の發行、代價卅五錢本書は嘗て人道と云へる雜誌に連載されたるものゝ由にて、尊德翁と其哲理に就て諸名家の評を輯めたる者なり、修身處世の好參考書

女子作法書 儀式の部

佐方鎭子 後閑菊野 共著

本年七月、明治圖書株式會社、代價五十錢 我國現時の禮式作法の野鄙亂雜なる、之れ一定の標準なきが故なりと、著者之を憂へて先づ歲首より五節句祝日の儀式より始めて、冠婚葬祭に至るまで古實を引て新法を案出しあれば、家庭には必要なる參考書

新式 平圓盤及蠟管 蓄音器械（多數御進物用蓄音器切手發賣）

蓄音器曰く 私ハ手もなく舌もなく又咽喉も持たずに尙諸君の御好次第に歌を唄ひ音樂を奏します

私ハ是と名のつく樂器ハ携へざれ共歌と同時に三味線笛鼓太鼓等の諸樂器を眞物と些しも違はぬ音調に合奏し尙長時間の演奏に些しも疲勞致しませぬ

私ハ總ての外國の詞に精通し何れの國の言葉にても最も流暢に演說し又泣きもし笑ひもします

私ハ都會の演劇場にて興行を其儘御覽になると同樣の感覺を與へます

右樣の譯で御座りますから軍隊の娛樂や家庭の御樂しみハ私を措て外にないと信じます

◉定價表歌目錄御一報次第進呈す

本店 東京市京橋區銀座壹丁目三番地 電話新橋九七九

東京淺草區並木町廿三、四、五番地 電話下谷九八八

支店 大阪南區順慶町四丁目 電話東二四一四

福岡市博多下西町角 電話五〇一

北海道小樽區色内町廿一番地 電話三二三

三光堂

（ラクダ印）

（麝香石鹸）

ラクダ印麝香石鹸は高貴なる麝香に愛すべきミレーの香料を多量に含むが故壹度使用せバ其香氣身体ハ元より手拭タオルハンカチーフ及び浴後のゆかたに至る迄うつり香いたし五日間ハ腹部としてかほりを失なはざる効力ハ舶來品にも未だ見ざる特點を有す

○定價 大形廿錢 小形拾錢（熱心勉强なる和洋小間物商及化粧品店にて必ず販賣せり）

近來類似品有「ラクダ印」と仲上に御注意

東京本石町三丁目十八番地 井上太兵衛

佛國パリー直輸入

ピンク白粉

芳香頗ル高評

輸入元 東京市日本橋區小傳馬上町 倉田山海堂

消化新藥

醫學博士井上善次郎氏の實驗報告に曰く 胃腸障害は往々疾病誘發の根元となり、又疾病治癒の轉居を遲鈍ならしむ、而して胃腸障害の內、澱粉を不消化に因するもの甚だ多し。殊に米飯を常食とする本邦人に於て然りとす。之を救濟する一に完全なる澱粉消化藥あるのみ、此目的に向て、余は高峰博士の發見に係るタカヂアスターゼを使用し、好果を收め、此種の製劑中最優等のものたることを確信す。

醫學博士栗本東明氏の實驗報告抄錄 高峰博士發見のタカヂアスターゼが唯一の澱粉消化藥として著大の効力を有するとは業に既に世の定評あり今や予は其實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著効を確認すると共に此種の患者に毎に之れが服用を勸告する者なり

錠劑粉末各大小容器入各地藥舖にて販賣す模造品あり必ず高峰氏タカヂアスターゼと乞御指定。實驗報告集は無代進呈

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新學期開始

大日本淑女學會

◎會員大募集――目下入會の最好機なり

▲事情があつて高等女學校に入る事の出來ぬ人の爲めに『女學講義錄』を發行し僅に二ケ年間に高等女學校程度の敎育を完全に正則に授けます

▲世間の講義錄は乾燥無味で面白味がありません、本會講義錄は此點に注意し、諸學科の講義何れも面白く極めて分り易いようにし、且つ有趣有益なる數十頁の雜錄の外に、美くしい家庭小說を毎號附錄とします

▲本會の講師は皆な斯道專門の大家で且つ敎育に充分經驗のある方のみです、講義は只親切と云ふ事を主として丁寧懇篤に說いてありますから本會々員は親しく講師の膝下に在りて講義を聞かれると同じ事です

▲本會講義錄は右に述べた通り最も完全したものでありますが、會費は極めて少額で都合一ケ月の遊學費で優に全期を終はる事ができます

高等女學校程度講義錄發行

批評一斑

▲中央新聞評　▲毎日新聞評　▲二六新聞評　▲日々新聞評　▲都新聞評　▲報知新聞評

講述何れも平易にして親切を極めたれば初學の講習に最も可也
米國の通信敎授法を參酌せるもの文字平易說明懇篤を盡くせり
高等女學校の全課程を講了すべく各講述者の態度頗る着實なり
講義はすべて平易と親切とを勉めて毫も難解の憂なきに似たり
講義平明用意親切なれば數多き女學雜誌中一領域を拓き得可し
講義錄多しと雖も實益と趣味と併せ有する事斯くの如きは稀也

上掲の批評を御覽にならば本會講義錄の眞價がお分りになりませう

▲本會規則書▼　端書にて申込あれば直に郵送す可し

◎東京神田南甲賀町　大日本淑女學會　電話本局三千四番

日本第一の大勸業場

(本場の特色)

◎あらゆる物品を最も格安の正札附にて陳列販賣し御買上品は市內無賃にて配達致します

◎御進物用物品切手を發賣して御望の品と引換ます

東京新橋角　帝國博品館　電話新橋(一六五二)(二二六一)

松澤 ホーサン石鹸

●色白く艶をだす　(大形一個廿錢　小形一個十錢)

●近頃にせ物多し御買求の節は商標及松澤名義に御注意

●當市內は勿論到る所賣藥小間物化粧品店にて販賣す

東京本石町四丁目　芳香藥種問屋　ムスク香水本舖　松澤常吉

上等ポンチ

下等、中等、上等ポンチ。世を諷し、俗を穿ち、思はず人をして成程と思はしむるを上等ポンチといふ錢ある者は上等を求めよ貧乏人は並等即ち下等を買つて、笑ひ度もなきに笑ひ、粥腹をかゝへてクタバルべし錢ある者は上等を求めよ!!!

近事畫報　第九十五號　八月十五日發賣

(目次)(大要)　▲軍艦引揚の新工夫▲軍人遺族の奪ひ合ひ▲捕虜將校八人粗の夢▲幼年者富士登山の進化▲上野公園の夜鳥▲女學生のストライキ▲ヘナ中尉とオペツ孃▲地獄極樂の紀念スタンプ▲朝鮮人の僞憤▲戀のトンネル新學士の情婦(イロ)は別▲戀の邪魔物其他珍圖澤山▲

定價一部金八錢　郵稅一錢半

芝櫻田本鄉町十七番地　獨步社

英國最新輸入

眞正無類　クイーン白粉

高等香油　クイーンオイル

本舖　東京　三井花陽堂

季節向き新柄物漏れなく取揃へ店內一面に陳列致し置候間御來觀被成下候樣奉希上候

地方よりの御注文は御書面にて御申付被下度く即日小包郵便を以て御屆け可申上候尚ほ註文御案內書は御一報次第呈上可仕候

三越吳服店

東京日本橋區駿河町

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京市麴町區錢瓶町（常盤橋內）

日本興業銀行

電話本局（三、三〇〇番　四一〇番　(特)三七番　一〇二番）

一定期預金　年五分

一當座預金　日歩七厘

一特別當座預金　日歩一錢

東京市日本橋區通一丁目

合名會社 **森村銀行**

電話（特）本局六七三番

定期預金　六ヶ月以上　年五分五厘

當座預金　百圓に付日歩　八厘

特別當座預金　同日歩　壹錢壹厘

北辰社牛乳は最も滋養に富む

明治十九年二月十四日一等褒賞を受く

北辰社精製のバタは味佳良

明治十九年三月十四日鑑定狀を受く

天下一品

萬

最上醤油

賣捌所は各地とも有名なる酒醤油店に有之候

釀造元　千葉縣野田町　**茂木佐平治**

スコット乳菓

小兒ノ發育期ニ用ユレハ其効驗ノ最モ著明ナルヲ證スルモノナリ

說明書ハ横濱郵便局私書函第五十八號

スコット乳菓部ヘ御申込アレバ無代價ニテ進呈ス

代理店　横濱市山下町廿八番館

米國貿易商會

袴乃親玉

東京日本橋區長谷川町

卸部 **美濃磯本店**　電話浪花二八九五番

小賣部

本郷區本郷五丁目　美濃磯本郷支店

淺草區諏訪町　美濃磯淺草支店　電話下谷二四一五番

日本橋區佐內町　美濃磯佐內町支店

神田區小川町　美濃磯神田支店

深川高ばし際　美濃磯支店

芝區新櫻田町　小田商店

牛込區神樂町一丁目　伊澤商店

四谷區傳馬町一丁目　伊澤支店

目

夏模様　花草水　斬新染

牛ゑり帯揚類

浴衣地片側帯

○夏レースショール○裾模様け出し○帛紗

○夏ネキタイ○しぼり染兵兒帯○伊達まき

○長襦袢○襦袢袖○下締め○しごき○手柄

○有効受賞まげ入○高等洗粉チエリー香入

○內國獨特

本店 **ゑり治**　新橋竹川町十二　電新二〇二七

支店 **ゑり治**　神田表神保町壹　電話本九五二

ゑり治出張店　新橋際博品館內階下

美人ムスク石鹸

此全形ナキ物ハ模擬ナリ

美人ムスク白粉

輸入元　東京市日本橋區新和泉町　**桑原花生堂**

醫院案內

院長 醫學博士 榊順次郎　副院長 醫學士 久保德太郎　每日午前診察　每日夕刻診察

婦人科産科榊病院　東京麴町三番町卅三（電話番町三九五）

內科小兒科 特に **呼吸器病**　麴町はやぶさ町二十八番地　ドクトル **川瀬元九郎**　電話番町八二二番

産科婦人科　東京日本橋區濱町三丁目七番地　**楠田病院**

小兒病診療　宅診午前　往診午後　淺草區福井町貳番地　醫學士 **內田愼太郎**　電話下谷七一八番

院長 醫學士 **烏山南壽次郎**　**烏山內科院**　午前診察　午後往診　京橋區鎗屋町十一番地　電話新橋千七百四十六番

峰內科醫院　神田區西今川町三番地（電話本局三〇一九）　內科病特に脳脊髄神經疾患　院長 ドクトル メヂチーネ **峰秀世**

山口眼科病院　東京神田錦町參丁目　電本七一五　診察午前午後　入院隨時　院長 醫學士 山口秀高

內科一般　東京神田區美土代町三丁目十七番地　午前宅診　午後往診　電話本局貳千九百七十番　**板垣亨**

夏期診察　電話下谷二三四二

專門　男女 尿道 膀胱病 **黴毒** 生殖器科

時間　午前八時乃至十二時　午後四時乃至八時

本郷湯島新花稲荷祠前　**下平尿科醫院**

開業廣告

私儀多年獨逸國留學中ノ處今般歸朝眼科專門開業仕候

神田區連雀町十八番地郵便局前　ドクトル **宇良田唯子**

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人廣告取扱

京橋區數寄屋橋外 弘報堂
神田三河町 博報堂
京橋區南紺屋町 一星社
京橋區南鍋町 秀逸堂
日本橋區上槇町 萬年社
日本橋區箱崎町 春風舍
京橋區宗十郎町 正路喜社
京橋區日吉町 帝國通信社
同區彌左衛門町 京華社支店
同區南鍋町 廣告社

洗用 **ワッセル**

◉此ワッセルは油じみ油あか如何なる汚れても揉ずに必ず落る石鹸曹達の如く布を損傷せず染色を褪さず費用と手數を省く經濟上有利なる日用品であります
◉用法は湯一升に二匁(小杯へ半分餘)の割合にて溶解し洗濯物を凡二時間浸し揉ずに置き後湯又は水にて洗へば自然に脱ますシャツの如きは(拾貳ダ)入一本にて貳百枚は必ず洗へます御婦人の髮は一匁五分を一升餘の湯に溶解してかもじを洗ふ用に揉ずに洗べし左れば玉子で洗た樣になります又食器臺所道具を拭き掃除にも有効です

定價 拾貳ダ入 金拾五錢 六ダ入 金八錢 袋入二錢

芳香御肌洗粉 **ワッセル**

◉此肌洗粉ワッセルは當時歐米各國貴族社會に流行する芳香類を加味し製造せしものなれば朝夕御使用の方は香氣馥郁として御肌持晴々す又おしろいしたを用ひずして御化粧が出來ると妙なり

定價最上 金七拾五錢 金貳拾錢 普通 五拾錢 六錢 參拾錢 三錢 拾七錢

東京市京橋區三十間堀三丁目 電話新橋一七一二
英國製ワッセル日本一手販賣元 御肌洗ひこ芳香ワッセル製造元 **三友商會**

暑中御進物用

ハンカチーフ 絹綿麻各種箱入
◉クレープシヤツ
◉婦人小兒用帽子
◉上衣キヤンバース
◉海水浴用安全浮袋
◉新着英國製更紗各種
◉精巧舶來人形各種
◉洋花りボンレース
◉旅行用化粧道具
◉外西洋小間物一式

東京市京橋區銀座三丁目
伊勢與 **三枝小賣店** 電話新橋三九二七番

歐米化粧品輸入商
東京濱町一 電浪一一〇
平尾分店
香油ゴールドオイル發賣元

日本横濱市 **金丸銃砲店**
振替貯金口座四七三番加入
正價表及振替拂込紙郵呈

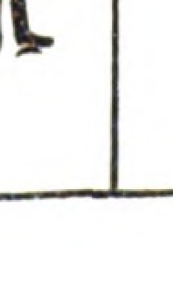
幼少年御婦人等の家庭用空氣銃射的銃等を始めとし青年大人紳士諸君の旅行護身携帶用自働拳銃射的銃等何れも英米獨佛製最新て精巧完全なるもの各新式各種類に捗り漏れなく取揃へ置候
正價表は御一報次第郵呈仕候
振替貯金拂込用紙は何枚にても郵呈仕候全國何れの地に御住居の方にても横濱本店にて實價買取同一の便法あり
詳細は御尋に對し敏速御答可仕候

文學博士井上哲次郎先生
文學博士井上圓了先生
文學博士元良勇次郎先生
學習院女學部長下田歌子先生 序

家庭必備の寶典

日本家庭辭書

西山悊治編



四六判形總クロース頬ル美本全一冊
紙數凡八百餘頁
舶來上等紙摺
定價金壹圓三十五錢
內地小包料十五錢
口繪中村不折畫伯の三色版挿入

製本出來▲一万部限り特價金九拾錢 小包料十五錢 (注意)本書と書名に類似の者發行あり著者發行所に注意

善をつくし、美をつくせる近來稀なる好著出たり、家庭の寶典として、奥さまにすゝむ……發賣部數に限りあり乞ふ至急御愛讀あらんことを

發行所 東京京橋區南大工町一 **弘道館** 電話本局二八四〇
賣捌 東京東京堂〇北隆館〇前川文榮閣 東海堂

杉谷代水氏作歌 …… 前田久八氏作曲

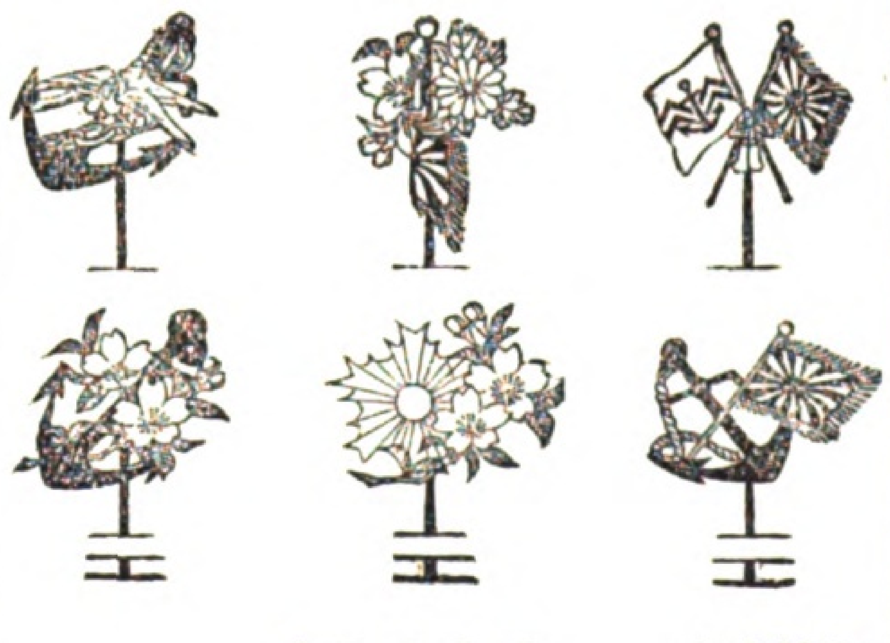
新曲 残夢

美本一冊定價金五十錢郵税六錢

夜來月明の城頭に纖手鳳管を弄せしの人、今は錦の袂に包まれし薄化粧の死顏、世に美なるものゝ碎けしばかり人の心を動かすはあらじ。馬上四十年の夢一たび醒めて覺めやらぬ黒谷の庵室、竟に轉迷開悟の門に入る、蓋して古傳説中の最も詩的なるもの今や代水氏が圓熟の筆に上りて前田氏が長日月の苦心により最も新なる歌曲となりぬ。曲は洋樂を基とし、時に本邦曲の旋律を取り、或は優美或は壯大或は悲婉、極めて變化に富み特に白の如きも一々曲譜を附して初學者の便にせり。弊社の新曲は教育界音樂界に於て既に定評あり、敢て趣味高雅なる家庭士女の一讀を俟つ。

發行所 東京神田錦町一 大阪鰻谷中の町 **修文館**
◉發賣所◉東京堂◉前川文榮閣◉中西屋其他

戰勝紀念ピン



銀金の地金に七寶の彩色うるはしく圖案は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠に成れるもの世の紳士淑女たちはその各胸間に飾りて此の千載一遇の皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

定價(純銀製 一個 金三十五錢以上 (餘は御好み次第迅速調製可仕候)

手釦は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠を凝らしあれば世の紳士たちは洋服に飾りて皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

此圖案の外陸海軍連勝にちなめる斬新の意匠を凝らしたる提物澤山出來致居候

宮內省御用達 東京市下谷區池の端仲町 **玉寶堂** 電話下谷 特九六五番 一二四四番

女學通信教授

◉本會は伏見若宮妃殿下を名譽總裁に戴き鍋島侯爵夫人會長として會務を統監す
◉小學卒業後進んで高等女學校に入學し難き事情ある女子達は本會の通信教授に依て家庭に居ながら必須の學科を修められよ
◉本會發行の講義錄は高等女學校の科目よりも一層多數の諸學科を網羅し第一流の名家を擇びて講義を囑托せるものなり
◉本會は高等簡易の兩科を設け女子素養の程度に應ぜしむ月謝は高等科四拾錢簡易科二十錢とす目下入會に都合よし會則は葉書か電話にて請求あれ(電話番町一三三〇)

東京市麹町區下二番町三七 **大日本女學會**

斬新材料
舶來薄絹シホン
ホワイト
リープス
郵券五錢御送付相成候はゞ見本進呈可仕候

各女學校御用
附屬品幷に造花器械類一式

東京市日本橋區横山町一丁目十六番地
天野卯兵衛 電話(長)浪花一六四三番

營業目錄御入用なれば愛國婦人を見てと御書添へ御申越被下度候

明治三十九年八月廿日發行(每月五日二十日二回)
發行兼印刷人 山澤俊夫
編輯人 手島益雄
發行所 東京麹町 愛國婦人發行所
印刷所 秀英舍

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人第百拾號附錄

明治三十九年八月廿日發行（毎月二回五日廿日）
明治三十五年三月二十七日（第三種郵便物認可）

總裁閑院宮妃殿下御染筆
（奥村刀自に賜はりたる）

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　愛國婦人會内愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN